令和７年度第２回松江市総合教育会議

日時：令和８年２月20日（金）13：00～16：00

場所：松江市役所　本庁５階　第２常任委員会室

出席者：松江市長　　上定昭仁

松江市教育長　　青木佳子

松江市教育委員　　塩川寛、大谷みどり、金津式彦、原田順子

○川上副教育長

皆様お揃いのようですので、ただいまより始めさせていただきます。

本日は、ご多用のところ令和７年度第２回松江市総合教育会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。本日の司会を務めさせていただきます副教育長の川上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして、上定市長よりご挨拶をいただきます。市長、お願いします。

○上定市長

失礼いたします。教育委員の皆様には、大変お忙しいところ松江市総合教育会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

今日は玉湯学園、あと、八雲中学校の先生からもお話をお聞かせいただけるということになっております。

今年、２月中旬でございますけれども、１月６日に大きな地震、島根県東部を震源とする最大震度５強の地震がございました。実は、１月６日のその時間帯に私はこの部屋におりまして、宍道湖絵画コンクールという、出雲市と松江市の小学生に応募してもらう宍道湖をテーマにした絵画コンクール、「こんな宍道湖になったら良いな」というものの表彰式をやっておりまして、小学生が９人来ておりました。

ちょうど表彰が終わって、そのあとみんなで記念撮影をしたんですね。そのあと、親御さんもいらっしゃったので、「もしよろしければ一緒に写真を撮りましょう」と言ったときに揺れ始めまして、最優秀賞を取った子とちょうど写真を撮ろうとしているときだったので、座り込んで、実はここは免震構造という構造でございまして、市役

所は揺れに強いといいますか、揺れを吸収するんですね。躯体部分でこうやってグッとするのではなくて、揺れることによって分散させて建物をそのまま保全するというような最新鋭の、これはNHK松江放送局もそうなんですけれども、そういうシステムになっておりまして、とにかく揺れたんですね。

それは女の子だったんですけれども、座り込んで泣き始めまして、「いや、大丈夫だから」と。「ここは揺れて大丈夫だから。みなさん、ここにいる限りは絶対安全ですからね。とりあえずここを離れないでくださいね」と言って私は戻りまして、災害対策本部の設置などをやっておりました。

小学生のみなさんにも大きな、少なくとも記憶には留まっているはずですので、そういったところのケアが必要かなというように思っているのと、1月6日の地震の発災でしたけれども、地震の状況を確認しましたところ、そこまで、もちろん被害はありましたし、お見舞いも申し上げるところですけれども、甚大な被害というのは、人的被害、亡くなった方はもちろんいらっしゃいませんでしたが、その次の日に、私も被害がある程度大きかったところに行かせていただきました。

行った先は実は学校でございまして、法吉小学校と四中に行かせていただきました。今回の地震が、揺れが大きかったというか、よく波動の計測みたいなものがしてありまして、それがちょっと大きく揺れたんです。細かい揺れが続く場合には、民家などが密集しているところは結構危ないらしいんですけれども、大きな揺れだったので、そこまで人家の被害はなかったのですが、学校とか鉄筋コンクリートは結構揺れで、支えるので窓ガラスが割れたり、壁にひびが入ったりしておりまして、それがちょっと古くなっているところには特に多くて、特に四中などは実はかなり多かったんです。

行きまして、これからちょっと安全を確認しなくてはいけない箇所がありましたり、あるいは既に段ボールで窓ガラスを塞いでいるところもありましたけれども、玄関先などは、やはり生徒の往来が盛んですので、ちょっとすぐに直さなければいけないということで、市内のガラス店さんに相当ご協力をいただいて、ちょっと無理をしていただいて、1月9日の始業式までに、すべてではないですけれども、段ボールのところもあるのですが、生徒がとおっても問題ない形にしていただいたんです。

その後の余震の状況なども確認した上でですけれども、9日の日に、予定どおり松江市立の50の、皆美が丘を含む小中学校、義務教育学校については始業式を迎えることができました。それが1つ。

もう１つは、先般２月８日の衆議院議員選挙の日に大変大きな雪が降りました。ちょうど投開票日だったので市の職員も総出で雪かきをしたり、投開票に支障が出ないようにということで尽力したのですが、次の月曜日、これはバスも走りませんでしたので、小中学校、義務教育学校は全部休校になりました。次の日も過半の学校については、残念ながら歩道の安全なども確保できないというような判断でお休みになったところが多かったのですが、そのときにも１人１台タブレット端末を配布しておりまして、今は家に持ち帰りもしておりますので、そこで宿題を配布する、あるいはリモート授業をするということもできておりまして、もちろん完全ではございませんけれども、ある程度のフォローアップはできたかなというように思っているところでございます。

こうした災害においても、やはり教育の継続、もちろん児童生徒の安全・安心が最優先ではございますけれども、すぐにそういった災害対応をした上で、安全を確保した上で、また、教育の機会もできるだけ損なわないということについては、現在、非常に自然災害が頻発化・激甚化する中では、やはり備えとしては必要だなというように実感したところでございます。

今日は、そういったことも踏まえてですけれども、昨今の社会情勢の移り変わり、あるいはICT教育の推進等も併せて、教育大綱の中間見直しについて議論をさせていただきます。

また、それに併せて、教職員の皆様の働き方改革プランもつくっておりますが、この見直しについても議論をさせていただこうというように思っております。教職員の皆様の熱い志と、また、専門的な知識・ノウハウ等をフルに発揮していただけるように我々も取り組んでいく必要があると思いますし、まさに行政、そして学校、家庭、地域が一体となって児童生徒・こどもたちの教育について、さらに検討を進めることで、より良い教育をつくっていくということが重要と考えております。

ぜひ教育委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきまして、今回の見直しについても実のある見直しにしていきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願いいたします。

○川上副教育長

市長、ありがとうございました。

本日は、2部構成にて会議を進めてまいります。第1部では、松江市教育大綱の中間見直しをテーマに、昨年10月の第1回総合教育会議でいただいたご意見を基に、見直しを行った教育大綱についてご報告いたします。第2部では、松江市の業務量管理・健康確保措置実施計画となります「松江市教職員の働き方改革プランについて」をテーマに、見直しにおけるポイントの確認や現状の把握を行い、教職員の働き方改革について課題や目標の共有を図ります。

本日も、市長と教育委員会が連携して教育行政を推進していくための意見交換の場としたいと考えております。

なお、本日の出席者につきましては、配布しております出席者名簿をご覧いただければと存じます。

また、原田委員におかれましては、所用のため途中退席されます。予めご承知おきください。

続いて、本日のスケジュールについてご案内申し上げます。はじめに、大綱の中間見直しについてご説明いたします。その後、意見交換の時間を設けさせていただく予定でございます。休憩を挟み、松江市の業務量管理・健康確保措置実施計画となります「教職員の働き方改革プランの見直しについて」をご説明いたします。説明の後、実際の学校現場の状況を玉湯学園・八雲中学校の2校に事例発表をいただきます。その後、意見交換の時間を設けさせていただく予定でございます。

それでは、松江市教育大綱の中間見直しについて、教育総務課より説明をお願いします。

○加納教育総務課長

失礼いたします。教育総務課の加納です。私のほうから、松江市教育大綱の見直しについて説明させていただきます。着座にて失礼いたします。

資料は、第1部の別紙1を中心に説明をさせていただきます。説明の途中で、別紙2の大綱の素案のほうも併せてご覧いただきながらと思っております。

また、教育大綱の現在のものと素案につきましては、お手元に紙資料でもお配りをしておりますので、必要に応じてご覧いただければと思います。

現在の教育大綱は、令和3年に改定したものとなっております。期間は令和4年度から11年度の8年間、総合計画と同じ期間で定めているものとなっておりまして、

このたび期間の半期が終了することから、年度末に見直しを行うものとなっております。

また、この大綱を見直すときは、法律により、総合教育会議で協議をすることとなっているため、10 月の会議に続きまして、本日、協議をお願いするものとなっております。

まず、今年度のこれまでの見直し作業の経過についてご説明をします。10 月 9 日の総合教育会議で、点検評価に基づいて大綱を振り返りまして、本市教育の課題について意見交換をお願いしたところです。

その後、12 月にかけまして、市長や教育委員の皆様との協議を踏まえて素案を作成しております。

1 月には、小中学校の校長会、市の PTA 連合会、また、社会教育委員の皆様へ素案を提示させていただきまして、いただいたご意見を踏まえて、また素案のほうの修正を加えております。

本日は、まず、これまでの見直し作業で行った点検評価に基づく推進状況、また、整理した課題、中間見直しにおける視点について、少し振り返りをさせていただきまして、その後に関係者の皆様からの意見と修正内容を説明させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

それでは、まず、進捗状況のほうを少し説明させていただきます。教育大綱は、元々の 1 つの基本理念、そして 4 つの基本方針、16 の推進施策について定めているところです。

教育委員会では、この 16 の推進施策に基づきまして、令和 6 年度は 63 の個別事業について点検評価を行っております。達成度の状況のほう、右のほうを見ていただきますと、63 件のうち順調が 41 件、概ね順調が 19 件、やや遅れているというのが 3 件という結果になっているところです。

そして、点検評価の結果を 16 の推進施策で見てみますと、茶色で囲った部分がございますけれども、こちらの 4 つの推進施策、②、③、④、⑥が順調に推移というところに届いていないということが分かります。

これらの結果と、前回の委員の皆様からのご意見を踏まえまして、進捗状況の総括としましては、教育大綱については着実に進行・進展はしているのですけれども、点検評価の結果から見ますと、下線部分でお示ししておりますが、学力向上、ICT 活用、

心の育成、国際人材育成の分野では更なる強化が必要ということ。また、これまでの強み、例えば幼小接続ですとか小中一貫教育などは、さらに伸ばしていく必要があるというところでまとめたところです。

そして、改めて推進施策ごとに本市教育の課題を整理しまして、中間見直しにおける視点をまとめまして素案づくりをしたところです。8ページから12ページまでが、その施策ごとの課題と中間見直しにおける視点をまとめた内容となっております。

そして、今ご覧いただいているところに、重点課題として、こちらの4項目を挙げたところです。

別紙2の素案のほうを見ていただきたいと思いますが、素案のほうで、これらの課題を踏まえまして、見直しを行った部分を朱書きで表示をしております。中のほうを見ていただくと、ちょっとこのように朱書きしている部分が、この時点で一旦修正をさせていただいた部分になります。

それでは、元の資料のほうをお願いします。13ページをお願いします。先ほどご覧いただきました素案に基づいて、関係者の皆様からいただきました意見ですとか、修正内容について、ここからは説明をさせていただきます。

教育大綱は、法律によりまして、地域の実情に応じて定めることとなっております。これらを受けまして、見直しに当たって、学校現場の実情ですとか、家庭の状況、地域の学びを勘案するために、素案に対して学校長の皆様、PTA、社会教育委員の皆様に意見を伺ったところです。

学校長の皆様からは、学校現場の負担ですとか実務・制度運用に関する視点を中心とした意見をいただいたところですし、また、社会教育委員のみなさんからは、地域の学びですとか生涯学習、社会教育の理念と構造に関するような意見を中心にいただいたところです。

数としましては、全体で44項目のご意見をみなさんからいただきました。その内容につきましては、第1部の資料2というものに、このようにまとめているところです。こちらのほうは参考にご覧いただきたいと思います。

それでは、元の資料のほうをお願いします。これらの項目のうち、素案のほうに修正を反映したものが17項目ございました。今日は、そのうち主なものを9項目について、こちらの資料のほうに記載しておりますので、説明をさせていただきたいと思います。

まず、①の地域資源を活かした学びの強化についてご意見をいただきました。これは、松江城や地域の「もの・こと・人」との対話を通じたふるさと教育を強化してはどうかというご意見をいただいたところです。

ここに№23というように付けさせていただいているのですが、これは先ほどご覧いただきました資料2の項目番号でして、そちらのほうをご覧いただくと、委員の皆様からいただいた、もう少し具体的な内容をお示ししているところです。

それでは、素案のほうの4ページをお願いします。いただきました意見を基に、【1】のところにお示ししておりますが、黄色のマーカーの部分を修正しております。具体的には、「体験」という表記を「対話や交流体験」というように修正をさせていただいております。

それでは、元の資料をお願いします。次、②の学力・学びの質向上についてです。こちらのほうは、ご意見としましては、幼小接続の取組領域の中で、幼小間における対話の重視が見直しの視点に挙がっているので、「確かな学力の育成」の項目の中に、「対話や主体的な学び」という文言を盛り込んではどうかというご意見をいただいたところです。

素案の5ページをお願いします。いただいたご意見を踏まえまして、【3】のところになりますけれども、「主体的・対話的で深い学びの実現を目指します」という文言を追加させていただいております。

元の資料をお願いします。次、③ICT活用・デジタル教育についてです。こちらのほうは、ご意見としましては、こどもたちが未来を自ら創造していくために、ICTと学校図書館を融合させ、情報活用能力を育成することを松江市の特色として推進すべきではないかというご意見をいただきました。

また、併せて、保護者への啓発が必要で、メディアリテラシーの育成においては、家庭の役割が重要とのご意見もいただいております。

素案の6ページのほうをお願いします。これを受けまして、素案6ページの【5】のところになりますけれども、こちらの一文のほうを追加させていただいております。

元の資料をお願いします。次、④人権教育についてです。こちらのほうは、課題整理の結果、自分と他者を大切にする心の育成については、課題が残る施策であるという結果が出ているのですけれども、その対応について、もう少し記載をしてはどうかということで意見をいただいております。

これも素案の6ページをお願いします。こちらの【6】のところの項目になりますが、こちらのほうを少し修正を加えておりまして、下から2つ目の項目になりますが、こちらのほうに、「SNSを通じて顕在化する新たな差別に対する人権課題」というところを付け加えておりますし、一番下のところに「学校教育・啓発機会の充実」ということを新たに盛り込ませていただいているところです。

元の資料をお願いします。次に、⑤特別支援教育についてです。こちらは、まず、素案の9ページの【7】のところをご覧いただきたいと思います。こちらのほうに、「読み書きに困難さを」という段落のところがありまして、最後のところの文末が、「研究・実践を進めます」という文言になっているのですけれども、中間見直しの段階なので、もう少し表現を変更してはどうかというご意見をいただいておりました。

それによりまして、文末のほうを「研究・実践を進め、その成果の普及に努めます」というように修正を加えております。

元の資料をお願いします。⑥学校・家庭・地域の連携についてです。こちらのほうはご意見として、学校と地域をつなぐコーディネーターの役割を位置付けられないかというご意見をいただきました。

素案の10ページをお願いします。10ページの【8】のところになります。こちらのほうに、コーディネーターのみなさんが中心的な役割を担って運営をいただいております「地域学校共同本部の連携」というところをこちらのほうに加えさせていただきました。

それでは、元の資料の⑦になります。こちらのほうは家庭学習支援についてということで、ご意見としましては、家庭学習支援の文言が曖昧で、学校が抱え込みすぎない表現にしてほしいというご意見をいただきまして、こちらのほう、素案10ページの【10】になります。こちらのほう、「学校・家庭・地域が一体となって家庭学習の充実を図る」という内容に修正をさせていただいております。

元の資料をお願いします。次、⑧になります。学校現場の課題、働き方改革についてということで、こちらのほうは給特法の改正に伴って策定が義務付けられました業務量管理・健康確保措置計画について、大綱にも明記してはどうかというご意見をいただきました。

素案の11ページの【14】をご覧ください。こちらのほうに、この実施計画について記載を追記させていただいております。

元の資料のほうをお願いします。こちら、最後9項目目になりますけれども、生涯学習、社会教育の充実についてということで、コロナ禍以降、公民館をはじめ、生涯学習の学びにおいても、オンライン講座ですとか、デジタル化が進んできているので、オンライン講座ですとか、デジタル活用による学びの機会の拡大について盛り込んではどうかというご意見をいただいたところです。

こちらのほうは、素案の12ページのほうになりますが、こちらの【16】のところに、「また、デジタル技術の活用による学びの機会の拡大を図ります」ということで、こちらも追記をさせていただいております。

もう一度、元の資料のほうをお願いします。下のほうの項目になりますけれども、公民館は地域の自治と人づくりのプラットフォームであることを明確にしてはどうかというご意見をいただいております。

これについては、素案の13ページの【17】のほう、こちらのほうを修正を加えたところです。

以上が関係者の皆様からご意見をいただいたものに基づいて、大綱の素案のほうの修正を加えた箇所となっております。

説明のほうは以上になります。よろしくお願いいたします。

○川上副教育長

それでは、意見交換の時間に移らせていただきます。

先ほどの教育総務課からの説明を踏まえまして、ご質問やご意見を頂戴したいと存じます。この教育大綱の中間見直しにつきましては、これまでにも皆様からご意見をいただいておりますことから、第1部では発言順を指定せず、はじめからフリートーク形式としたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

それでは、ご意見やご質問のある方からご発言ください。

○原田委員

原田です。ご説明ありがとうございました。

私もずっとこの大綱の見直しのところに携わっていて、今さら意見するのはどうかと思うのですけれども、校長先生とかのリアルな声を聞かせてもらうと、やはりちょっと深いところまで考えることができまして、私もちょっと色々思うところが出てき

てしまったの、今さらなんですが、ちょっとお伝えさせてもらおうかなと思うんですけれども、まず、PTA からの意見がなかったというのがちょっと残念だなというところがありまして、これがどのような意見の聞き方だったのかちょっと分からないのですけれども、何かしらのリアクションがもらえるような仕組みというか、聞き方にはならないのかなというように思いました。

社会教育委員さんの中にも保護者枠で入っておられるので、ちょっとダブる部分はあるかもしれないのですけれども、ちょっと PTA さんに、むしろメインどころとなる方たちには、この大綱をしっかり読み込んでもらうという意味でも、もうちょっと見てもらうやり方はないかなというように考えました。

あと、この見直しが、色々修正を見ていくと、結構ここまでやってきた事業を大綱に組み込んでいくみたいな印象があるのですけれども、見直しとはそういうことなのかというのが私も分からないところであって、大綱から事業がつくられていくというイメージだったので、上手くいった事業を事例として入れ込むのはあるのかもしれないけれども、何か逆転している雰囲気を個人的には感じたところがあります。

ですから、事例としてもあまり細かいものが入ってくるイメージはないし、大綱として、まず、ボンとあるものだというように考えるので、見直しをしていく段階が、事業を吸い上げるではないですけれども、そういうイメージがなかったので、ちょっとそこが疑問に思ったところです。

あと、生きる力を持ったこどもたちの育成のところなんですけれども、やはりふるさとへの愛着とか夢の実現というのはすごく大事なことなんですけれども、やはり義務教育までのこどもたちは、まず、こどもの一人ひとりの心の豊かさであったりとか、あとは、まだ足りないと言われている他者との関わりであったりとか、健やかな体づくりのところがまず重要だと私は考えていて、こどものころにしっかりと心を育てて、自分に自信を付けてから、そこからまた夢の実現にも向かって進み始めることができると思っています。

校長先生が挙げられていた自分と他者を大切にする心の育成の部分の修正が、今回すごく良い具合に修正していただけたなというように思いました。

あと、あと家庭学習についてなんですけれども、先生方のリアルな声を聞くと、保護者の思っている家庭学習と相違があるといいますか、やはりその辺りの擦り合わせは大事ではないかなと思っていて、それをちゃんとと擦り合わせて、じゃあ学校の役

割は何なのか、保護者の役割は何なのかみたいなところがもうちょっと、私も保護者の立場として、どう家庭学習を考えていったら良いのかというところに課題があるなというように思いました。

あと、もう１つ、部活動の地域転換のところですけれども、働き方改革のところに今回、この部活動の地域展開についての文言が入っていまして、それも１つ大事な要素なんですけれども、働き方改革のための地域展開という感じがちょっとしてしまっていて、大綱だけを見ると、やはり体づくりのところにも、しっかりとこどもたちのための地域展開で、みんなで活動をやっていくみたいなところが入ったほうが良いのではないかと今さら思ってしまって、ちょっとお伝えするんですけれども。

あとは、ICT の推進のところで、主体的な学びをまず言っている。１つ目のポツで「主体的な学びを推進する」と言っていて、次が「協同的な学びを通して課題解決力を育てる」ということが書いてあって、その次に、結構メインどころではないですけれども、大きいものが書いてあるというのが、私は２番目のポツと３番目のポツは逆なのではなかいかなと思ったのですが、その辺りは私の個人的な感想です。

以上です。

○川上副教育長

ありがとうございました。

事務局側から、今いただいたご意見について回答やら考え方やら、もしあればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○加納教育総務課長

教育総務課の加納です。ご意見ありがとうございました。

まず、関係者の皆様からの意見集約について、今回、本当に市Ｐ連の皆様からご意見がなかったのは残念に思っているところです。

今回、１月のところでご意見をいただいたのですが、なかなかの対面でご説明をさせていただく機会がありませんで、それぞれの団体のみなさんとご相談した結果、個別に資料を送らせていただいて、みなさんが回答しやすいように、島根電子申請でそれぞれ集約をさせていただくような形を今回とらせていただきました。

今後もこのような機会があると思いますので、また今回の状況を踏まえて、事務局

の方と相談をさせていただきながら、また意見集約の機会は持たせていただきたいと思っております。ありがとうございます。

○川上副教育長

そのほか事務局側からいかがですか。部活動の地域展開であるとか、ICT の推進に関わるところ、もしあれば。

○後藤学校教育課長

失礼します。学校教育課の後藤です。ご意見ありがとうございます。

まさに部活動の地域展開というのは、まず第一には、こどもたちにとって持続可能な活動できる環境をつくるということが大切です。ただ、ここは大項目自体が「こどもたちの教育環境の充実」という項目の中の 1 つにもなりますので、ちょっとそういったことも踏まえて、どこに位置付けるのが適切か改めて検討させていただければというように思っております。

○川上副教育長

そのほかよろしいですか。

それでは、委員の皆様、続いての発言をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。金津委員、お願いします。

○金津委員

2 点、私も今さらなのかもしれませんけれども、ちょっと思ったことを。

今回、この教育大綱に携わらせていただいて、中間見直しもなんですけれども、ちょっとほかの自治体のものを色々見たのですけれども、この松江市の教育大綱は非常にしっかり充実したものができているなというように思ったので、先ほど原田さんからもちょっとあったのですけれども、市民やこどもを持つ親がどれほどこれを見ているのかなという部分のリサーチといいますか、その辺りがどうなのかなということが 1 点。

あと、これもさんざん中間でやってきて、意見とかも出して、ちょっと今さらなのですけれども、ちょっとここにきて急激に、みなさん重々ご承知だと思うのですけれ

ども、AI の急激な進展を見せて、世の中がちょっと激変していく様相を感じていまして、扱いは、この資料だと整理中であるというのは、「今回の見直しに反映させるのは難しいと考えております」とあるのですけれども、やはり何らか、AI という軸が何もないのがどうなのかなという部分があって、何らか言及があるほうが良いのではないかなと個人的には思っています。

去年、2025 年というのは、我々日本の企業においては AI の普及元年と言われていて、弊社でも導入とか検証とか色々進めているのですけれども、逆にアメリカとかでは AI 失業元年だったわけなんです。それくらい社会を激変させつつあるもので、これは期間が令和 11 年までのものだということを考えると、何らか言及が必要ではないのかなというように個人的にはちょっと思っています。

以上です。

○川上副教育長

ありがとうございました。

学校教育課からありますでしょうか。お願いします。

○石倉 ICT 教育推進係長

失礼します。学校教育課 ICT 教育推進係の石倉です。私のほうからご回答させていただきたいと思います。

まず、先ほどの原田委員からのご意見にもありました ICT の記載の順番ですけれども、内容を精査して、もう一度記載の順番を検討させていただきたいと思います。回答が遅れましてすみません。

それから、金津委員からありました生成 AI について、整理中ということで一旦ご説明をさせていただいたところですけれども、現状を申し上げますと、先生が校務で使うパソコンについては、生成 AI は利用を禁止させていただいております。これは後ほど働き方改革でもご説明があると思いますけれども、生成 AI は委員ご指摘のとおり、今後、働き方改革、業務改善につながるものであるというようにこちらも認識しておりまして、今、ルールづくりをして内部で協議しております。そういったことで、整理中であるというお答えをさせていただいたところですが、御指摘のとおり、ただ、何も書かないというのはこの時代というようなお話がありましたので、もう一

度内部のほうで話し合いまして、記載ができるものか、できないものかというところを検討させていただければというように思っております。

回答は以上になります。

○金津委員

すみません、先ほどのご回答は、先生の使うAIということのようにとれたのですけれども、どちらかといえば、私は教育の現場、こどもたちが使っていく上でのAIという感覚をどちらかといえば強く持っているのですけれども、実際、文科省が出しているガイドラインとかでは、「教育委員会が主導して制度設計や利活用の方向性を示すことが重要」ということが書いてあって、それは両方の意味であって、あと、松江市さんも一応活用の方向性とか、ちょっと調べたら出てきているものがあって、整理中で書けないということと、何かその辺りがちょっとどうなのかよく分からなくて。

○石倉ICT教育推進係長

言葉足らずで申し訳ありませんでした。整理中というのは、先ほど「教員の」というようにお答えをさせていただきましたけれども、児童生徒のほうも検討させていただいております。

教員と児童生徒というのを同時に今、ルールづくりしているところです。それについては、委員ご指摘のとおり、国のガイドラインについて、教育委員会が制度設計するべきであるというようなことがありますので、その制度設計を今現在している最中ということになります。

ですから、そういったところも加味しまして、また記載については検討させていただければと思っております。

○金津委員

ありがとうございます。

○川上副教育長

教育長、お願いします。

○青木教育長

先ほどのAIの活用につきましては、国のガイドラインに基づいて、今年度中のところで松江市のマニュアル・ガイドラインも作成して、各学校に通知をする予定としております。

以上です。

○川上副教育長

いかがでしょうか。ご意見をいただきたいと思いますが。

大谷委員、お願いいたします。

○大谷委員

失礼いたします。ご説明ありがとうございました。私も途中から関わらせていただいてはいるのですけれども、非常に良くできている教育大綱だというように感じております。

しかし、同時に、先ほどお話がありましたように、せっかく良くできているものを、これがどのように周知されているか、ホームページに載っているだけなのか、その辺りのところを、「必ず読んでください」ということではないのですけれども、「ここにこういうものがあります。松江市の教育の核になっています」というところが市民のみなさん、特に保護者のみなさん、先生方にもう少し広く知られると良いのかなというようには思いました。せっかく良くできているのでというところが1つです。

私もAIについては金津委員と同じで、どこかに、まだ結論は誰も出せないものだと思うのですけれども、検討中であるというようなことが少し触れてあると良いのかなと思いました。

文科省も本当に色々な事業をAIで展開して、研究中のところだと思うので、松江市として、結論的なことは言えないと思うのですけれども、何か少し触れてあったほうが良いのかなというように思いました。

あと、原田委員もおっしゃったのですけれども、非認知能力的なところ、改めてこれを見せていただいたときに、私は松江出身ではないので、大阪から来ているので、大阪から見ると、松江は本当に自然と歴史が豊かな町で、何かそういうところがもう少しこの教育大綱に入れても良いのかなというような、すみません、それは県外から

来た者の感覚だと思うのですけれども、本当に生かせる資源が非常にたくさんあるところなので、それがもう少し何かの形で、ほかのところでも良いのですけれども、出ても良いのかなというようには思いました。

以上です。

○川上副教育長

ありがとうございました。

塩川委員、お願いします。

○塩川委員

ご説明ありがとうございました。

今まで教育委員のみなさん、今、色々ご意見をいただいたのですけれども、ずっと積み上げてきたものに加えまして、それに校長先生、社会教育委員のみなさんの貴重なご意見をいただきながら、本当に松江らしいといいますか、松江の強みを生かした大綱的なものができたのではないかなと思っているところです。

あと、具体的に各学校・幼稚園等で実践をされていくとは思うのですけれども、学校に留まらず、先ほどのお話のように保護者・地域への大綱、大綱そのものというより、コンパクトにまとめて、本当に保護者・地域の方に分かりやすいものがあるとより周知して、より実践されるのではないかなと思います。

本当に事務局を中心に大変なご苦労があったと思います。見直しという点では、本当に棲み分けができているのではないかなと思います。

以上です。

○川上副教育長

ありがとうございました。

今、複数の委員より周知について、親がどれほど見ているのだろうかということがありましたが、どうでしょう。現時点で事務局側としてお答えできる部分があれば、コメントをお願いします。

○加納教育総務課長

失礼します。教育総務課の加納です。

今は具体的にはホームページには掲載をしておりますが、それ以外で、直近で周知ということが今できていないところです。ただし、今回の見直しに当たって、本当に色々な方からご意見をいただいたり、現状を見直して新たなものを策定させていただきますので、学校や保護者さんはもちろんなのですが、SNS 等でも発信するですとか、あと、先ほど市 P 連の方との意見聴取のことも出ておりましたので、これから年度初めで、色々な団体さんは会議等もされますので、またそういうところで機会があれば出かけさせていただいて、ご説明などもできればと思っております。

また、どうしても今は冊子的な形になりますので、少し分かりやすい概要版なども作成するようなことを検討もしていきたいと思っております。ありがとうございます。

○川上副教育長

どうでしょう。今回、中間見直しということだったのですが、これまでのものについて、保護者の立場から周りの声とか、「見たよ」みたいなことがありますか。原田委員、いかがですかね。

○原田委員

私も教育委員の立場というのが、まだ慣れないといいますか、守秘義務を抱えていると思っていると、どこまでしゃべることが許されるのかが分からなくて、あまり深いところまで言えないのですが、まず、教育大綱についてお母さん方としゃべったことはないという事実ですね。私は足りなかったなと反省しております。

○川上副教育長

特にお母さん方から小耳に挟んだということもなかったということですね。

○原田委員

そうですね。存在を知らないだろうなという。

○川上副教育長

まずはそこからというところでしょうか。

○原田委員

はい。

○川上副教育長

分かりました。ありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。まだ少し時間が残っておりますけれども。塩川委員、お願いします。

○塩川委員

色々追加のご意見があったわけですけれども、まだ見直しの余地はあるのですか。

○川上副教育長

はい。まだございますので。

○塩川委員

ぜひともPTAの方、それから校長先生だけではなく教職員の方、全員というわけにはいかないと思うのですけれども、そういう機会を、もし余地があれば意見をどこかで吸い上げていただくとより良いかなと。

○川上副教育長

ありがとうございました。

そのほか。原田委員、お願いします。

○原田委員

何度もすいません。まだ余地があるということなので、ちょっと1つ言いたいところがあって。

プラバホールのパイプオルガンについての記述を1つ入れたほうが良いのではないかなと思いまして、山陰で唯一あるとか、松江市がパイプオルガンを大事にしているところ、それをこどもたちにも市民のみなさんにも親しんでいただきたいというよう

な文言を１つ、最後のページだと思いますけれども、総合文化センターを拠点とした文化振興のところに入れたほうが良いかなというように思っています。

○川上副教育長

ありがとうございました。

そのほか、いかがでしょうか。大谷委員、何かお考え中かなと思うのですが、ご発言よろしくお願いします。

○大谷委員

失礼します。周知の仕方を少し考えていたのですけれども、例えばですけれども、私自身が松江市のことを何で一番知る機会が多いかなと思うと、やはり週報なんですね。多分、年代にもよると思うのですけれども、私はやはり松江市の週報を見て、「今、こういう動きがあるんだ」とか、毎回市長さんが色々メッセージを送ってくださるのもあれで見ることが多くて、でも、新聞は今、取る人が限られていて、でも、松江市のあの冊子は多分見る方が多いのかなとも思ったり、あと、今、「MATSUE DREAMS 2030」のきれいな冊子ができていると思うのですけれども、島根県が島根県をまとめたパンフレットの１枚ものぐらいのものをつくっていると思うんです。

例えば、私、大学にいると、あれを色々使うことがあって、例えば「東京に出なくても、島根ではこんな良いことがあるよ」みたいなことを１枚ものでとても語られている感じがして、例えばそういうのを松江版だったり松江教育版だったり、それをどう広めるかというのがあると思うんですけれども、先ほど「集約したものも」とおっしゃっていたのですけれども、そういうものもあっても良いのかなと。

それが紙媒体になると、またお金がかかってくるので、ホームページにアップしても良いと思うのですけれども、せっかくこれだけ良いものがあるので、何かの形でもう少し広められると良いなと思ったところです。

○川上副教育長

ありがとうございました。ヒントをいただきました。

市長、お願いします。

○上定市長

大谷委員がおっしゃっていただいたことと関連してなんですけれども、結局このようなプランをつくったとしても、大上段に構えたプランであればあるほど抽象的になりがちなので、具体的な施策に落とした上で、市民のみなさんの生活とどういう関係があるかというような噛み砕き方をして、分かりやすく共有することがすごく重要だと思うんです。

その際に、「市報松江」というのは、そういう大上段に構えたプランについての紹介はあまりしていないのですけれども、むしろ生活に近いところのアプローチで分かりやすくというのは相当工夫しているつもりです。「市報松江」でよろしかったですかね。

○大谷委員

そうです。

○上定市長

実は週報にすれば本当は良いのですけれども、そこまではできておりませんで、月1回の発刊でございまして、私も色々思いも含めてコラムを設けさせていただいて、締切りに追われながら頑張ってつくっているというのがございます。

それで、みなさんに発信していくにあたって、ちょっとこれは一般論なんですけれども、例えば「市報松江」というのは、とてもお金がかかっているんです。印刷をした上で届けなければいけないので。また、地域の方のご負担も随分かけていただいていたりもします。

一般的にデジタル化が進んでいて、色々なものをPDFにもできるし、SNSでも発信できるしというコストの削減のみならず、拡散する手法として多様性が出てきているんですけれども、市報だけは、たくさんの方に見ていただきたいということと、見やすさという面と、どうしても紙でお届けすることも必要だなという認識の下で、ちょっと割り切ってコストをある程度かけているというところがあります。

一方で、ちょっと違う話なんですけれども、子育て支援施策などは、ITリテラシーの高い若い世代の方が中心となるので、本当はおじいちゃん、おばあちゃんにも知っていただきたいというのはあるんですけれども、なので、ある程度デジタル化を促進しているような面もありまして、では、教育というものをどう考えるかというような

情報の発信のスタイルはあると思うんです。当然、全部とは言いませんけれども、若い世代の方、特に小学生のお父さん、お母さんというのが中心で、我々、高校はとりあえず皆美が丘しか持っていないというところもあったりはするのですけれども、できるだけ情報の共有を円滑に図れる手段というのを DX も含めて、時代の流れに合わせて検討はしていきたいと思うので、そういった面でもご意見をいただければと思っております。

それから、ちょっと全体的な話で先ほど来出ていることの中で、ちょっと私も「この教育大綱で良いのではないか」と言っている手前はあるのですけれども、ただ、みなさんからの議論もいただく中で、先ほど大谷委員からいただいた中で、確かに自然とか歴史とか松江ならではのもの、それは原田委員からいただいたパイプオルガンも含むんですけれども、そういったものを上手く活用して、ふるさとに対する愛着や誇りも芽生えていくということというのは、とても重要だと思うんですね。

どこでもやっていることではなくて、この地域でなければできないことだったり、ふるさとに対する思いが持てるような教育という観点では、学力の向上のところとシンクロしにくい部分は確かにあるんですけれども、とはいえ、最終的な定住だったり、1 回出ても戻ってくる。それによって今の担い手不足が解消されるとか、そういうことも含めてなんですけれども、かなり意味があることと思っておりまして、そういった意味では、ふるさと教育に松江市は相当力を入れておりまして、最初の説明にもありましたけれども、特徴的な強みの部分で挙げさせていただいていて、この写真の中にも「MATSUE WAKU WORK」というのを去年から始めておりましたり、小学校 3 年生のシジミ漁だったり、小学校 6 年生の松江城授業プロジェクトなども盛り込んでおります。この辺りをもう少し充実させていけると良いなと。

よく出ておりますのは、例えば私立の保育所などでお茶をたてる機会があったりするんです。なので、英語教育をやっているのと同じように、お茶のふるさと教育というのも、これは私立だからできるものという言い方もできるのですが、何らかそういったメニューを増やすことによって愛着が育まれやすい仕組みというのがあると良いなというようには思っているところでございます。

もう 1 つ、ちょっとまた色が違うんですけれども、ちょっとこれはすみません、教育委員会に私が質問することになるんですけれども、小中一貫教育というのは、これは中高一貫も含めてなんですけれども、世の中にあまたあるわけですね。その中で、

松江市として今やってきているのは八束学園と玉湯学園。今度、湖北中学校と大野・秋鹿・古江の 3 小学校を統合して湖北義務教育学校というのを、まだ仮称ですけれども、今後つくっていくことを念頭に置いています。

今までやった小中一貫教育のメリット・デメリットのような、要はこれまでやってきた実績として、やはり小中一貫というのは意味があるんだというところが今回も強みに挙げられていた理由だと思うので、それを段階的に、要は湖北みたいに統合せざるを得ない事情と、そのピンチをチャンスに変えていくというところが合わないと、なかなか簡単にできるものではありませんし、逆に言いますと、地域の拠点であった小学校だったり、幼稚園だったり、保育所だったりを統合していくというのは、かなりのインパクトを与えてしまうことになるので、慎重に考えていく必要もあると思うんです。

なので、ちょっと教育委員会に触れていただきたいこととして、小中一貫教育、先ほど強みには出ていましたけれども、今までの振り返りだったり、今後の小中一貫教育の方向性について、ちょっと説明を加えていただければと思います。

○川上副教育長

ありがとうございました。

後藤課長、お願いします。

○後藤学校教育課長

失礼します。学校教育課の後藤です。

小中一貫教育について、松江市では平成 22 年から全中学校区で小中一貫教育をスタートしました。ただ、その時代の小中一貫教育というのは、まだ国の制度として、義務教育学校といった制度もできておりません。中学校区でそれぞれの小学校と中学校がしっかり連携して、連携からさらに進んだ一貫教育を目指していくというような理念の下スタートしております。そういった点では、全国的にもトップランナーというか、そういう形で導入してでおります。

その後、国のほうの制度化がなされて、小中一貫教育の最終的なゴールではないですけれども、義務教育学校という新たな学校種が制度化されました。

その後、八束学園であったり玉湯学園、今、湖北のほうもそういった方向で動いて

おりますが、その背景としてそういった今までの歴史があります。
今もベースとして全市的に小中一貫教育推進事業というのをやっておりまして、義務教育学校でないところも、例えば一中校区でいえば千鳥の杜学園として、1つの中学校と4つの小学校が色々な小中一貫教育の組織をつくっております。会議体として、学園教育推進会議というようなことも学園単位で継続して行っておりまして、そういった意味では、すべてが、今後、義務教育学校という形になることをめざしているのではなく、本市においては、それぞれの形で小中一貫教育、小学校と中学校がしっかりつながって、こどもたちが義務教育9年間をしっかり成長できるような形を今後もしっかり継続していきたいというように思っております。

以上です。

○川上副教育長

そのほか、いかがでしょうか。

塩川委員、お願いします。

○塩川委員

先ほどの小中一貫教育についてですけれども、ちょうど松江市の小中一貫教育が始まった立ち上げのときに、私もスタート時からいさせていただいたんですけれども、一番今思うところは、色々なメリット・デメリット、デメリットはないかもしれませんけれども、メリットがあったと思います。

振り返ってみると、やはり今の中学校校区内の教職員の顔が分かる、見える。それによってこどもたちとの交流ができる。本当に教職員の顔の見える体制ができたというのが、振り返ってみると一番メリットだなと、今、振り返っていたところです。

○川上副教育長

ありがとうございます。

小中一貫教育以外でも良いですが、そのほかの話題で、もう少し時間がありますけれども、いかがでしょうか。

原田委員、お願いします。

○原田委員

私もちょっと質問したいんですけれども、先ほどの小中一貫教育の中の義務教育学校において、中１問題はどういう感じで、やはり義務教育学校にしたことによって中１トラブルが減ったとか、そういう結果があるのでしょうか。

○後藤学校教育課長

失礼します。もう義務教育学校になると、そのまま６年生から７年生のほうに進級していくというような形になりますので、中１に上がって、環境が大きく変わるといったことはございません。

中には「変わることが良い」という意見もありますけれども、滑らかな接続、小学５年生が６年生に上がるのと同じように、６年生が中１である７年生になるというような体制になるかなと思います。

そういう意味では、本当に中１ギャップといった経験は、少なくなるかなというようには思っております。

ただ、中学校になると体制が変わりますので、例えば教科担任制が始まったりというようなギャップはあるかと思いますけれども、それ以外の部分でいうと、滑らかな接続というような形がとれるかなと思っております。

○原田委員

ありがとうございます。そうすると、私は小学校から中学校に上がるというのもやはり大事だと思っていて、区切りといいますか、ちょっと１段階成長するといいますか、やることも変わるみたいなところは大事だと思っているので、あまり滑らか過ぎて去年とあまり変わらないみたいな状況は、それはそれでどうなのかというように思うので、やはり義務教育学校になると、それが上手いこと切替えもある上で、滑らかに進むみたいなところが見えるのかなというように、それが良いところだなというように思いました。ありがとうございます。

○川上副教育長

そのほか、いかがでしょうか。

……質問・意見なし……

これまでたくさんご意見をいただきました。今回、1つの視点、大事なポイントとしましては、教育委員会とか教育委員とか、いわゆるこちらの側から、あるいは学校の教員から見た目でつくっている。それは保護者の見た目としてどうなのかというところは、これからも点検・再度検討していく中で、そういう見方もしながら最終案に向けていけたら良いかなと、貴重な視点をいただきました。ありがとうございました。

改めて委員の皆様には、最終案をご確認いただいた上で最終決定にしたいと思っておりますので、またよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

それでは、ここで10分間の休憩をとらせていただきます。前の時計で15分にはお席にお戻りいただきますようお願いいたします。

（休憩）

○川上副教育長

それでは、第2部の「松江市教職員の働き方改革プランについて」に移ります。第2部でも事務局より現状の課題等について説明と、学校の事例発表を受けたあと、皆様からご意見を伺う時間を設けております。

それでは、教育総務課教職員係よりご説明をお願いします。

○三島教育指導官

教育総務課の三島でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、働き方改革プランの見直しについて、私のほうから説明させていただきます。

令和3年2月に「松江市教職員の働き方改革プラン」を、また、令和6年3月には第2期プランを策定し、教職員の心身の健康を保持し、仕事と生活の充実につなげるとともに、学校教育の質の維持・向上と活性化につなげるため、教職員の長時間労働の解消を目指すという目的で取り組んでまいりました。

令和7年6月に、公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法等の一部を改正する法律（改正給特法）が成立しました。この中で、教育委員会に対して文部科学大臣が定める指針に即して、教員の業務量の適切な管理と健康・福祉を確保するための措置、いわゆる「業務量管理・健康確保措置」でございます。これを

実施するために、「業務量管理・健康確保措置実施計画」の策定、公表、計画の実施状況の公表を義務付けられました。

既に学校における働き方改革プラン等がある教育委員会においては、その内容が指針に則しているかを確認の上、必要に応じて修正・追記等をすれば良いとされています。そのため、第 2 期プランを国が定める指針を踏まえた内容に改め、実施計画に変えることといたします。

次に、教育委員会が実施計画を作成する上で、国が求めているポイントを説明します。働き方改革の目的は、教育職員の「働きやすさ」と「働きがい」を両立し、こどもたちにより良い教育を行うことが目的であるということ。

国、教育委員会、地方公共団体、学校、地域、保護者など、教育に関わるすべての関係者が、その権限と責任に基づき、連携・協同しながら取組を実施することであります。

また、実施計画・実施状況を公表すること、総合教育会議に報告すること、地方公共団体と連携を図りつつ、実施計画の見直しや取組のさらなる改善につなげることとされています。

実施計画を作成する上で、令和 11 年度までに 1 ヵ月時間外在校等時間を平均 30 時間程度に削減すること。時間外在校等時間が 80 時間を超える教育職員を早急になくすことを政府目標としています。

それらの目標を達成するために、日常的な働き方の改善を促す指標として、1 年間における 1 ヵ月時間外在校等時間の月平均が 30 時間程度、労働基準法の時間外労働の上限を意識した指標として、1 年間の時間外在校等時間を 360 時間以内、また、1 ヵ月の時間外在校等時間が 45 時間超過者を 0 にする、すなわち 45 時間以下の教職員の割合を 100%とするという水準を満たす必要があると示されています。

また、可能な限り教職員のワークライフバランスや働きがい等に関する目標を実情に応じて設定することも示されました。

実施計画には、これらを達成するために教育委員会が講ずべき措置に関する具体的な取組内容等を記載するものとされています。

まとめると、教育職員の勤務状況等に関する状況を把握し、その状況を踏まえ、業務負担の見直しや適正化、必要な環境整備等の在校等時間の長時間化を防ぐための取組を実施することであります。これは既存の第 2 期プランと同じつくりであります。

今回、国が示した具体的な取組内容としては、大きく2つあります。1つ目は、学校と教師の業務の3分類です。服務監督者である教育委員会は、円滑に役割分担の見直しが行われるよう、地域の実情に応じた運用に努めることとされています。詳細は後のスライドで説明いたします。

2つ目は、学校業務の適正化等です。標準を大きく上回る授業時数の指導体制に見合った見直し、年間授業週数の実態に応じた1日及び1週間当たりの授業時数の平準化、学校行事の精選、放課後の児童生徒の活動時間を勤務時間内に設定、デジタル技術を活用した校務の効率化、勤務時間外の外部対応を抑制する環境整備として、留守番電話の設置などが教育委員会が講ずべき措置の内容として示されております。

ここからは松江市の現状を説明します。業務量管理の面で見ますと、時間外在校等時間は平成30年度と昨年度を比較すると、小学校は5時間減の40.1時間、中学校等は18時間減の42.5時間となっていますが、政府目標の30時間を上回っています。

なお、ここの「中学校等」というところにつきましては、中学校・義務教育学校・分校を合わせて「中」というように記させていただいております。

また、健康確保措置の面で見ると、ストレスチェック受検率は14%上昇し84.4%、高ストレス判定者は4%上昇し12%となっております。ともに全国平均より悪い値となっております。

次に、先ほどお示ししました学校と教師の業務の3分類に合わせて、これまでの取組状況を説明します。

1つ目の学校以外が担うべき業務、5項目あります。色が付いているものは、現在取組を進めているものでございます。ただ、色が付いていても十分ではないところもあり、さらに取組を進めていかないといけない点もございます。

2つ目の教師以外が積極的に参画すべき業務、8項目ございます。国は「合計19項目をすべてしなさい」と言っているわけではありません。「自治体によって取り組めることから行うように」と言っております。

3つ目の教師の業務だが、負担軽減を促進すべき業務、6項目ございます。スクールサポートスタッフの全校配置、これはこれらの業務の負担軽減につながっていると考えられます。また、各校でも生活時程や業務の見直しを図っているところでございます。

ここからは、本市の働き方改革プランの見直しの方向性、すなわち策定を義務付け

られた「業務量管理・健康確保措置実施計画」の方向性を説明いたします。

既存の第2期プランを「業務量管理」と「健康確保措置」、2つの観点から見直しを図ります。

また、実施計画の期間ですが、島根県も国と同様に、令和11年度までの期間を設定するようです。第2期働き方改革プランの期間、令和8年度を本市としましても、それに合わせ令和11年度といたします。

数値目標は、「業務管理」と「健康確保措置」において3つずつ設定しました。まず、業務量管理の面は、国と同様に時間外在校等時間を平均30時間程度。月45時間超の割合を0%。市独自のものとして、すべての教職員が年次有給休暇を10日以上取得としました。これらは第2期プランの数値目標と同様でございます。参考に、括弧内には令和6年度実績を示しております。

健康確保措置の面は、先ほど課題で説明したことについて、ストレスチェック受検率を全国平均以上、高ストレス判定者全国平均以下、3つ目を健康リスク度合いを80以下としました。この健康リスク度合いとは、ストレスチェックの仕事の量的負担・仕事の裁量度の数値と上司のサポート・同僚のサポートの数値を総合判断して算出される数値です。

令和6年度を見ますと、1つ目の仕事の量的負担・仕事の裁量度は104.6ですので、全国平均の100より悪い値となっています。

一方、2つ目の上司のサポート・同僚のサポートは76.6ですので、全国平均より良い値となっています。

これらを総合判断すると、健康リスク度合いは80.2となり、全国平均の100より良い値です。令和6年度が約80ですので、目標値を全国平均の100以下ではなく、令和6年度よりも良い結果を出すことを目標値とするために、80以下と設定したところでございます。

最後に、業務量管理と健康確保措置の具体的な取組を既存のものと新規のものも含めて説明いたします。

はじめに、業務量管理の取組です。スライドのローマ数字とアラビア数字も合わせて第2期働き方改革プランから抜粋しているものでございます。

Ⅲ1、学校全体の業務支援に関わる取組は5つあります。音声ガイダンス対応電話は今年度に完全導入となりました。

Ⅲ2、大規模校、教頭等管理職、部活動を担う教職員に対する業務支援に関わる取組は5つあります。

Ⅲ3、地域や家庭等の理解と協力に関わる取組は2つあります。

次に、健康確保措置の取組です。Ⅳ1、教育職員の健康及び福祉の確保に関わる取組は3つあります。

今後のスケジュールです。本日、総合教育会議、並行して現在、全教職員対象にアンケートを実施していますので、それらも参考にして実施計画を策定し、4月1日に施行いたします。

4月の教育委員会会議、6月の総合教育会議で実施計画を説明させていただきます。

私からの説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○川上副教育長

続いて、事例発表をお願いします。

○石倉ICT教育推進係長

失礼いたします。学校教育課の石倉と申します。

事例発表に先立ちまして、私から少し説明をさせていただきたいと思います。

その前に、まず、本日ご用意しましたみなさんの目の前にパソコン、資料のほうを見ていただいているものなのですけれども、これが本年の1月から本格運用を開始しております児童生徒用の1人1台端末となります。実際に学校では、もう既に児童生徒がこれを使って勉強を始めているということになります。持っていただいたりして重さ等とも確かめていただければと思うのですけれども、こういったものを使って学びを始めておりますということをご報告させてください。今のところ非常に起動が早いということで、好評をいただいております。

それでは、説明をさせていただきます。第2部は働き方改革ということがテーマになっておりますので、その中で校務DXということでの事例発表を2校からさせていただきます。

私から、この「校務DXとは」についてご説明をさせていただければと思います。

校務DXのDXという言葉はデジタルトランスフォーメーションという言葉で、要するに学校の中においてデジタル技術を取り入れて業務改善を行っていくということ

が言葉の意味というようになっております。

それから、下のほうには文部科学省のデータを利用させていただきましたけれども、一番上の最大の目標は個別最適な学びと協同的な学びの実現ということになっております。その下を支えるのが政策である働き方改革の推進というようになっています。そして最後、その一番下を支える施策として、校務 DX による業務改善というようになっております。

こういった図をつくっておりまして、目的ではなく、校務 DX は手段であるというように文部科学省も表現をしています。

こういったところを踏まえまして、松江市の方針として、松江市 GIGA スクール構想第 2 期というのを今年度策定しその中の「進める 4 つの施策」の 1 つとして「校務 DX の推進」ということで掲げさせていただいております。松江市の教育委員会としても、校務 DX は重きを置いて進めていくということとなります。

その校務 DX を推進する目的ですけれども、まず、1 つ目が、健全な学校運営を行うためということになりまして、この中には先生方の過大な時間外労働を削減するというようなことも含まれております。

それから、2 つ目です。業務改善によって児童生徒と触れ合う時間を増やすためというようにしております。触れ合う時間というのが、学習ですとか生活指導、心の成長、そういったところも促していけるような時間を業務改善によって増やすというようなことをもって松江市のほうは進めているということになります。

その大きな手段の 1 つとして、Google のクラウドサービスを市内で統一的に使用するということで、この校務 DX を図っていこうというところで方針を打っております。

本日、事例発表していただく 2 校も、この Google のクラウドサービスを使っておりますので、そういったところを注目して聞いていただければと思います。

統一的にこういったことを進めることによって、事例を取り入れやすくなるというようなことがあります。教育委員会としては、今日発表していただいたような事例をさらにほかの学校にも広めて取り入れていただくというところも責務だと思っておりますので、そういったところを進めていきたいというように思っております。

それでは、本日は、改めてですけれども、玉湯学園の瀬崎先生、それから八雲中学校の久保田先生にそれぞれ事例発表を行っていただきます。

それでは、よろしくお願いいたします。

○玉湯学園　瀬崎教諭

失礼します。玉湯学園の瀬崎と申します。

玉湯学園開校、今、5年目が終わろうとしています。毎年こどもの数が増えておりまして、今度4月には800人を超えるということになります。今797名、スタッフのほうがすべてで74名、かなり大きな学校、松江市で3番目ぐらいですかね。そういう学校で今やっていることについてご紹介させていただきたいと思います。

私、本校が今、4年目が終わろうとしています。小中学校合わせた教務の総合的な教務の立場、それから、元々は中学校の教員で理科、技術、今話題の情報技術科のまさに関わりのある教科なんですけれども、そのようなところで今働かせてもらっております。

そもそも本校なんですけれども、昨年、それから一昨年というところ、2023年、2024年といったところ、「リーディングDXスクール」という国の文部科学省の事業がありまして、そちらの事業のほうに島根県のほうから選ばれたという形で関わらせてもらっておりました。

このリーディングDXというのが、GIGA端末が配られ、そのGIGA端末をしっかり使う、「GIGA端末の標準仕様、元々組み込まれているそういう機能をしっかり使って学校の教育活動を行いなさい」という趣旨のものでした。

汎用的なソフトウェア、それから何よりもクラウド環境をしっかり使って、児童生徒の情報活用能力の育成、個別最適な学びと協同的な学びの一体的な充実、そして校務DXを行い、そういう良い事例をしっかり広げていきなさいという、そういう事業でした。そういったものに2年間参加させていただきました。

それに参加するにあたって、本校では、1つの大きな柱として校務DXというところを据えまして、取り組みをさせていただきました。全国の先行的に行われている事例とかも取り入れたり、うちの学校のほうでやりやすいような形に変えながら、試行錯誤で取り組んでいきました。

見える、省ける、変わるということで取り組みをまとめさせていただいたものがありましたので、今日はそれを使ってちょっとお話をしたいというように思いまして準備をしております。

先ほども教育委員会の総務課さんのほうから話もありましたが、授業の改善、児童

生徒の学びの質の向上ということもございますし、私たち教職員がゆとりを持って仕事を行っていく、ゆとりを持つことによってこどもたちへの対応、あるいは授業がさらにより良いものになっていくということで活動を進めていきました。

本年度はもうリーディング DX の指定は受けておりませんが、引き続いてうちの校内では色々な工夫の取り組みをしておりますので、それも併せてお話しさせてもらえたらなというように思います。

この約 3 年間を振り返って非常にポイントになったなと思うのは、やはり管理職の先生方でした。特に、うちは 2 名の教頭先生がいるわけなんですけれども、その教頭先生が上手に舵取りをしてくださって、特に目線合わせという言葉を頻繁に私たちに伝えてくださって、時折立ち止まって今の状況をみんなで確認をして進めていくということをやっていました。

正直言って、今、私ももうちょっとで 60 ですけれども、これぐらいの年代の教員が山ほどおりまして、なかなかアナログを捨てられない、デジタルに全部なかなか切り替えられないというところで、アナログとデジタルを上手に使っていこう、紙が良いものは紙で残していって、でも、デジタルが良いものはデジタルに変えていこうということで進めてまいりました。

実際に使ったのは、先ほど石倉係長からも話がありました Google です。このリーディング DX の取組を行うにあたって、本校では一足先に Google の利用をさせていただきました。Google のアカウントをこどもたちも全部、それから学校のスタッフのほうもみんなそういったものを準備していただいて取り組めるようにしていただきました。

今、お手元にある Chromebook、とても Google の使いやすいマシンなんですけれども、これは Google の Chromebook に限らず、Windows のコンピューターでも iPad でも動きますし、学校にあるこどもたちが使っている Windows 端末でも十分使うことができました。そういう環境で、Google のサービスを中心に利用させていただきました。

先ほどのリーディング DX の話にありましたように、汎用的なものをしっかり使おうということで、特別なアプリとかは基本使わないようにして、できるだけサービスの中にあるものを利用するという方針で行いました。

特に使いやすかったのはスプレッドシートとか Google のクラスルーム、スライド、

それから、よくアンケートとかでも使いますフォームというのが結構汎用性があって便利が良くて使っておりました。

特にみんなで同じものを同時に使うとか、あるいは生徒によってワークシートを配っておいて、それを受け取ったこどもたちが別々のものを書き込むとか、それを教員が見たりできるというような切換えが簡単にできて、非常に軽くて使いやすいものでした。

ここから具体的な取り組みについて、ちょっと話をさせていただきたいと思います。一番うちの学校でやって良かったなというのが日報のクラウド化になります。元はスプレッドシート、エクセルみたいな表計算の表なんですけれども、よく学校では日報というのが朝用意されて、先生方に配られて、1日の動きなどの共通理解をされるのですけれども、それをスプレッドシートを使ってクラウドに載せて、みんなで見られるようにしました。書き込みもみんなができるようにしました。

朝のところ、「8時10分までには書き込んでください」ということで書き込みをしてもらって、そこで情報を得る。これは、どこでも情報を得ることができますので、必ずしも職員室にいる必要がない、小学校の先生方が教室でこどもたちを待ちながら確認をするということもできますし、中には、今、実は私の技術もそうですけれども、極端なこと言うと4校兼務というのが技術の世界ではあります。情報を伝えたくても、そもそもうちの校内に先生がいないとか、職員会に出ることができない、あるいは授業だけをするために来てくださっている緊急対応非常勤の先生とか、ちょっと遅く来て早く帰られますので、職員会とかに参加してもらうこともなかなか難しい、そういう中で伝えることは伝えたいということで、他校にいてもらってもGoogleにアクセスさえできれば見ることができますので、非常に情報が瞬時に伝わるということで、とても便利なものになりました。

中にはアナログの好きな先生もいます。学校日誌、日直が回って「異常はありませんでした」ということを記入して、穴を開けて閉じるという学校日誌もこれを更に印刷したものを使って、アナログとデジタルを混ぜながら使いました。これが非常に好評でした。今も毎日活用しております。こういうクラウド化の効果というのを多くの先生方は感じているということになります。

それから、もう1つ良いなというのは欠席連絡です。昨年、ちょうど1年ほど前に「tetoru」というサービス、教育委員会さんのほうから「これを市内全部で使いまし

ょう」ということで広げていただいて、すべての学校で使っていると思いますけれども、玉湯学園はそれよりも一足早く、先ほどの Google のフォームという機能のアンケートシステムを使って、他県の学校で使われているものを参考にしながら、そういったものを始めました。

基本的には今、「tetoru」というサービスで使っているものと同じなんですけれども、保護者の方には、できるだけこれを使って連絡をしていただくようにお願いをして、「当日 8 時までには入れておいてください」ということをお願いしました。親さんが出たあとに、お年寄りの方が学校に何か伝えなくてはいけないとか、何か緊急の場合にはお電話のほうももちろん受け付けるようにして、基本的にはこれでできるだけ入れてもらうということでやっておりました。

教室のほうでも参照することもできますし、非常にこれが便利が良くて、一応数を集計してみました。これも今はほとんどうちの学校では定着をしていまして、ほぼ100%に近い数字で欠席連絡はこのシステム、今は「tetoru」なんですけれども、こういうので入ってきます。多いときだと月に 700 件を超える連絡が入ります。

これに変わったことで朝の電話対応がほとんどなくなったというか、0 に近いような形になりまして、特に事務の方、朝早く来て電話を取ってくださるみなさんが大変喜んで、「非常にこれは効果があった」、「余裕を持って、朝、こどもたちを迎えられるようになった」、あるいは保健室のほうでも状況が良く分かりますので、「今、病気でこれが流行りそうだ」とか、そういう対応をすぐ、休校の措置とかを取ることができたりして、これは非常に効果があったなというように感じています。

電話の対応が減った、ほぼなくなったというのがとてもありがたいというようにありますし、欠席者が今どういう状況だということを、遅れてきた先生もこれを見ると、「今日は何年何組、欠席者多いんだね」というのが分かって、非常に共有がしやすい。それから、ミスがないとか、非常にこれは良いなというように感じております。おうちの方もスマホがあればすぐに連絡ができますし、非常に便利が良いというように感じています。

それから、次に Google のクラスルームという機能、これは Google のメニューの中にあるんですけれども、クラスルームと呼ばれますけれども、企業のほうでも使われているというように聞いてます。教室みたいに、ここで登録している生徒たちで情報の交換ができるんですけれども、これは別に生徒に限ったことではなくて、教員も使

うことができて、クラスルームを使った職員室というのをつくりまして、うちはこれを使って情報の共有も図るようにしました。

先ほど言いましたように、なかなか学校に常駐できないスタッフもおりますので、ここに例えば職員会であった議事録、企画会の議事録とか、そういったものも載せたり、必要な情報できるだけ、研修のこととか、こちらのほうに載せて参照できるようにしてみました。

あと、クラスのほうでも先生方がそうやって使うようになると、また、こどもたちにも使わせていただいて、こどもたちも教室のほうで利用するという場面も増えてきまして、中には、これから連動して Meet というオンラインの会議システムとかも使えますので、中には教室にタブレット 1 つ置いて、常時その教室の様子が保健室とか、ちょっと教室に入りにくいこどもたちが校内の別の場所で授業の様子を見たり、出席停止ということで、なかなかちょっと学校に出たくても出られない状況のときに、家から見たりとかというところで、学びを止めないということで、非常にこれは良いなと、結構使えるなということで、利用の範囲がかなり広がっています。

あとは、校内の施設予約。校務支援システムという、松江市のほうで用意していただいているものにもあるんですけれども、先ほど言いましたように、なかなか職員室にいない、あるいは校外のほうにしかいないという教員もいますので、こういう Google のクラウドシステム、どこでも使えるというシステムを使った情報共有というのはとてもありがたいものでした。

あとは、Google スライドを使って校内の案内板みたいなものをつくって、誰でも書換えができるようにしてみたり、それから、先ほどのフォームですけれども、例えばこんな使い方もありました。今日、急に休校になりました。後期課程・中学校だと、「気を付けて帰りなさいと帰らせました」で終わるんですけれども、前期課程・小学校の場合には、おうちの方にお迎えに来ていただく必要もあります。「どうやってお迎えに来られますか」、「遅れられますか」とか、「何かこちらのほうに言っておきたいことはありますか」というのも、このフォームのリンクを送って、逆におうちの方に入ってもらってこちらが把握するとか、これも電話対応が減るという意味では非常にありがたいことになりました。

面談の調整とか、学校評価、PTA 役員の投票などなど、講演会のときの一時預かりの希望とか、中には職場体験が終わったあとのこどもたちが帰りました報告というの

も、職場体験が 3 日間あるんですけれども、そういったようなものも行うことによって、職員室にかかってくる電話がかなり減ったり、把握が楽だったりというようなことがありました。

それから、YouTube というのは、実は Google のサービスの 1 つです。配信の仕方の設定を変えたら、一部の URL を知っている者しか見ることができないというのもありますので、そういったところで行事のことを少しお知らせしたりとか、学校の様子をお知らせしたりするのにも使いました。

また、そうやって教員が使うと、こどもたちに授業の中でも色々利用して使うという場面も出てきました。今日はちょっと授業の方は中心ではありませんので省略させていただきますけれども、また公開授業など「フリーでどうぞ」というような形で、スマホ 1 つ持ってきて QR コードを見てもらったら、どんな授業がどこであるのかが分かったり、感想を書き込んでもらうみたいなこともやってみました。

それから、縦のつながりも上手く生かして情報活用能力の育成も、上級生が下級生に対して行うというのも、うちの学校の良い利点かなというように思います。

校務 DX、昨年 11 月ですけれども、先生方にちょっとアンケートを取ってみたりしたんですけれども、「DX は非常に良い」というご意見をいただいております。しかし、中にはやはり苦手な教員というのもおりますので、またそういったところは色々なサポートもお願いしたいなというようには思っているところです。

こうして 2 年間、あるいは 2 年間プラスアルファ私たちもやらせてもらったんですけれども、振り返ってみて、せっかくこういう市のみなさんの前でお話しさせてもらっておりますので、ちょっと私たちの意見としてお伝えさせてもらうことができるとしたら、やはり ICT の支援をしてくれる人、あるいは伴走型の支援をしてくださる人のそういう制度とか、そういうものがしっかりあるとありがたいですということ。

あるいは、県とか、そういう私たちは異動がありますので、「松江市は良かったけど、ほかの市に行ったら」というのではちょっと困りますし、ほかの市でやったことがこちらで使えないというのも何か悔しいものがありまして、そういうちょっと広い範囲での情報基盤を整理・構築してもらって使わせてもらえると良いなと。

あるいは、生成 AI というのを上手に使うと、更にもっと良い校務 DX ができると思いますので、そういったものをぜひやらせてもらえたら良いなというように思っています。

ネットなどを使うようになると、こどもたちも使うんですけれども、ときどき市の名前を書いた分で、外字でなければできない字などが出たときに、よく名前が表示されないものがあって、最近、もうあれは良くないなと思っていまして、何かしら統一の見解で、一般的に使える文字をネット上とかそういったところ、Google のサービスとかでは使うとか、そういう方向を出していただけるとありがたいかなというように思ったりします。

玉湯はこうやってリーディング DX に参加させてもらって、色々学ぶべきもの、成長する部分がありました。今も授業は継続されています。今度は AI をそこに入れたそういう授業もありますし、できれば継続して、色々な学校でも、市内のほうからでもぜひリーディング DX 授業への継続参加みたいなことがお願いできるとありがたいなというように思っています。

今、基盤が整いましたので、小中学校、ぜひこういう玉湯でやったことで使えるようなものを市内の色々なところに広げていって、ぜひ生まれた時間の空白をこども一人ひとりに還元するための松江市のデジタル教育推進基盤ということで、ぜひしっかりアピールをして、みんなで進めていけたら良いなというように思っています。

以上です。今日はありがとうございました。

○川上副教育長

ありがとうございました。

続いて、八雲中学校からの事例発表をお願いします。

○八雲中学校　久保田教諭

それでは、紹介に預かりました八雲中学校の久保田航和と申します。

私、瀬崎先生と同じくというか、入れ替わりで実は玉湯から八雲に異動しまして、八雲中 4 年目というところで、今年は研究主任として学校の教育だとか、こどもに対しての学習のサポートについても主として動かせていただいています。よろしくお願いします。

それでは、本校の ICT 教育だとか、業務についてのお話をさせていただきますが、本校の ICT 活用ですが、今、中心に置いておりますのは、「やくポ」というものを本校の ICT 活用の中心に据えさせていただいております。またあとで紹介いたしますの

で、ちょっとご想像ください。

それでは、まず、本校のICT活用の現状についてです。それこそ本校のICT活用の活用についても、先ほどのリーディングDXスクールとして引っ張っていただいている玉湯学園さんの取り組み等も大いに参考にさせていただいて、今は欠席連絡、これも「tetoru」が入る前のころから、ずっと長い間電子化をさせてもらっていたり、あとは本校として健康観察、毎朝、生徒が行う健康観察についても電子化をし、この2つは同一のスプレッドシートに集約をして、エクセルみたいなところに集まってくるような形になっております。

また、本校でも授業だけでなく、学級や生徒会等でGoogleクラスルームのほうを活用しておりまして、色々ファイルの共有だとか、連絡を取り合ったりしております。

また、今年度より松江市のほうでも力を入れて導入していただいた採点ナビというデジタル採点システムのほうを導入させていただいて、こちらについてもすごく教職員の丸付けだとか、採点の負担が減ることや、あとは計算ミスなどのミスが減るなどの多くの効果を得ているという実感があります。

あとは、校務にというわけではないですが、それぞれの授業をつくるときの参考資料とかで、結構「notebooklm」をはじめとしたAIを活用している教員も少しずつ出てきているような形でおります。

その中で、本校のICT活用の中心軸として、ポータルサイトによって情報を集約するというところが軸になっております。本日は、こちらのほうを重点的に紹介させていただきます。

なぜ本校の取り組みの中心が情報の集約になったかですが、実は本校のICT活用における課題とテーマがありまして、それがこちらの前の表のとおりになっております。

先ほど玉湯学園さんの発表のほうでもあったんですが、本校の職員の年齢層についてこのような偏りがありまして、まず、いわゆる中間層の30代後半から40代後半の職員はおらず、20代・30代の若手層と50代前半以降のベテラン層という形で二極化しているところがあります。人数比についても若手層とベテラン層、ベテラン層のほうが若手層の2倍人数がいるというところで、年齢層についてもこのような特徴があると。

こちらについては、あくまでも傾向というか、本校の形かもしれないですけれども、どうしてもやはりベテランになるにつれてICTの活用に抵抗感だとか負担感だとか

というのがあるような傾向がありまして、これまでずっとその積み重ねられていた蓄積とまた全く違うところで、色々複数のサイトの横断をしなければいけなかったりとか、仕様が違ったりだとか、先ほど紹介したように採点ナビや今年松江市の学力調査などで使っているマイアセスをはじめとして、毎年新しいサイトやツールやサービスや、あとは去年から今年で、「今年はこのシステムをお使いください」や、そういった複数サイトの横断や仕様の違いというのがたくさんありまして、これについてはベテラン層だけではなく、若手教職員についても混乱がある、負担感があるという傾向がありました。

そのため、なかなかICTについて抵抗感だとか負担感を持っておられる先生が多かったので、本校のテーマとして情報が1箇所に集まってきたりだとか、一目で分かるだとか、あとは操作性についてもなるべく同じにするだとか、そういったことについて本校でしっかり重点的に取り組むべきだというように考えました。

また、分かりやすい操作方法と毎日の仕事の中、毎日やる作業の中に必要な情報を散りばめるというところ、導線の設計についても本格的にしっかり検討してまいりました。

これについては、教職員のICT活用だけでなく、生徒のICT活用についても同様で、やはり今のスマホなどもそうですけれども、アイコンで分かりやすかったりだとか、すごく一目で分かったり、一覧したり、集約したりということが気軽な利用につながると考えておりますので、本校のICT活用の基本方針として、生徒・教員ともに学校のポータルサイトに毎日接続をして、その中で、そこを訪れればすべての情報が得られたり、どこに行けば良いか分かるというのを本校のICT活用を軸に据えさせていただきました。

こちらのポータルサイトについては、先ほど玉湯学園さんの資料の中に実は入っていたんですが、Googleに搭載されているGoogleサイトというサービスがありまして、それがすごく直感的に、全くプログラミングだとか、そういうデジタル系ではなく、直感的にここに何を入れるというのが分かる、簡単にサイトがつくれるようなツールになっておりまして、こちらを使って分かりやすいポータルサイトをつくって、それを毎日活用していこうという形になりました。

それでは、具体的に本校のポータルサイトについて紹介させていただきます。こちらが本校のポータルサイトになります。実は、恐らく皆様のお手元にある資料と少し

変わった部分がありまして、こちらは生徒用のポータルサイトなんですが、タイトルのほうを「八雲中学校掲示板」から「やくポ」というように名前を変えました。

これについて、これからも本校のICT活用等の中心に据えていこうという思いがありまして、その愛称を生徒や教員から広く募集したところ、八雲中学校ポータルサイトで「やくポ」という形で名前を変えさせていただきまして、今でも学校のほうで「やくポに上げておいたよ」とか「やくポに載っているよ」みたいな感じで愛称が伝わっていって、すごく良かったなと思います。

見ていただいて分かるとおり、基本的に生徒用と教員用、同じような見た目になっておりまして、これについても分かりづらさがないような設計にしてあります。

生徒用の学校サイトについては、これらの機能が1つにまとまっているような形になります。またあとで詳しく一つひとつ紹介をさせていただきます。

生徒は、先ほども言ったように健康観察を毎朝Googleフォームを使って行うのですが、それがこちらにありまして、その健康観察に行くまでのところで今日の予定、いわゆる日報を見て、そのあと掲示板というところで細かい連絡やファイルの共有などを受け取ったりして、そのあとに健康観察に向かうというところで、毎朝必ず新着情報を目にすることができるような設計になっております。

教員用の学校サイトについてもこちらの機能が備わっていて、同じように、教職員については、こちらに健康観察と欠席連絡すべてが集まってくるような場所があるので、そこに向かうまでに必要な情報を目にすることができるような形になっております。

それでは、どちらのサイトでも一番上に上がっている「今日の予定掲示板」、一つひとつの機能について説明をします。

こちらは「今日の予定の掲示板」ということで、ちょっとAIにアドバイスをもらいながらWebアプリのほうを作成させていただきました。こちらについては、教員が入力した予定だとか、今、ちょっと生徒会のほうからも要望がありまして、生徒も生徒会の本部や執行部というリーダーの子たちについては、予定や連絡を打つことができるような形になっています。

日付や天気については、教員が構わなくても自動で取得できるようになっていたり、その日の大まかな時程だとか、その日の大きな予定についてはアイコンで一目で分かるような形になっております。

また、「今日のお題」という欄がありまして、こちらについては、生徒会の目標「個性尊重の目標とタイアップ企画」ということで、毎朝1日1質問があって、答えたものがここに流れていくみたいな形で、結構こどもたちも喜んでやっています。

そして、こちらの「今日の予定の掲示板」については、このように生徒が朝学校に来て一番最初、昇降口の真正面にも同じようなものがデジタルサイネージに載っておりまして、生徒たちは朝来たら、まずこちらで「この日はこういうことがあるんだ」とか、「こういう連絡があるんだ」というのを見ながら確認をしたりだとか、こちらのベンチが本校の憩いのスペースになっておりまして、休み時間とかのんびりしながら色々な人の投稿を見たりして、「そうなんだ」みたいな、そのような形で生徒たちも見ながら楽しんでいる様子があります。

こちらが生徒が2番目に見ることになる「学校連絡板」というもので、これは掲示板のツールであるパドレットというものをGoogleサイトの中に簡単に埋め込むことができまして、それによって教員とか生徒による、こちらの「今日の連絡」には載せきれないような細かい連絡だとかファイルの共有、こちらは例えば生徒総会の資料だとか、あとは単元テストの模範解答だとか、そういったことについても簡単に共有して、簡単にダウンロードができるということで、そういうところに利用しております。

こちらが本校独自で行っている健康観察なんですけれども、Googleフォームというものを毎朝入力するような形で、自動的にメールアドレスはGoogleのChromebookに入っていれば入っていくので、クラスを選んで自分の体調、「元気」、「体調不良」、「熱がある」からチェックをして、体調不良がある場合は体調不良の詳細に移るページ、熱がある場合は熱の度数を打つようなページに飛ぶという形でやっております。

これによって、中学生はなかなか自分の体調不良をみんなの前では正直に言いづらいような子たちとか、そういう子たちについても、「お腹が痛い」だとか、「ちょっと怪我をして」とか、そういうことも正直に打ったりするようなところがあります。

「今日のお題箱」については、先ほど言ったような感じです。

さらに、健康観察の下のほうには学習サイトのリンクが載っておりまして、先ほどたくさん紹介があったGoogleクラスルームだとか、タブレットドリルだとか、そのほか色々な学習に必要なサイトへのリンクが、このようなアイコンを押すとそこに飛べるという形で埋め込んであります。スマホアプリなどを参考にして、アイコンをポンと押すだけで分かるというように、できるだけシンプルにしております。

実は、「やくポ」のトップのこの辺りに、ポンと押すだけで簡単に移動できる場所に、生徒会の掲示板というのがありまして、これもちょっとみなさんのお手元の資料により、先日、生徒総会の回答等が入りましたので、より充実したのですが、生徒会から全校生徒に連絡をする。これは生徒会の生徒がそのまま打っているものなんですが、そこに生徒会本部のデジタル目安箱を入力する場所があったり、放送報道委員会のリクエスト曲を打つ場所があったり、各委員の子たちが色々身だしなみチェックとかを打つ欄があったりだとか、あとは生徒総会の回答、「ボールの空気を入れてほしい。【回答】話し合ってどうのこうのします」みたいな感じで、全部生徒会の連絡がここに集まってくるという形になっております。

その横にあるのが「落としものボックス」で、落としもの担当が撮影をして、このボタンからアップロードすることで、このように落しものが一覧で見えるようなものもありまして、こちらについても実装してすぐのところで何件も「あれは僕のです」とか「これは僕のです」という感じで見つかりまして、本校でも落としもの管理、かなり負担があったりとか、鍵を使ってとか、そういうところで苦労しているところがあったので、これによってその落としものの管理というのが非常に楽になったところがあります。

教職員も同じようにパドレットだとか色々なものを使って連絡をする場所などがあり、本校の大きい取組の健康観察と欠席連絡についても、サイトの下のほうにそのままこのファイルが埋め込んでありまして、ここを見るだけで欠席連絡はここに飛んできて、各クラスの健康観察も、これは google 版のエクセルのスプレッドシートになっておりまして、それぞれ押すことで健康観察も欠席連絡もこのファイル１つですべて見ることができるというような形になっています。

体調不良がある場合は、このように内容が出てくるので、養護教諭などもこれを見て文章がたくさん入っていたら「体調不良者が多いな」、「このクラスは心配だな」とか、先ほど玉湯学園さんからもありましたが、こうやって一目で見ることで、学校でそういう色々感染症の危険等もすぐに気付くことができて、すごく良くなったという声を聞いています。

また、なかなか普段からこういうものに馴染みのないベテランの先生方だとか、若手の先生でもあまり馴染みのない先生方についても、例えば担任の先生が休みで、自分が今日は朝礼に上がらなければいけなくなったというときも、ここさえ見ればすべ

ての情報があるので、そういうときもスムーズに様子が共有できているところがあります。

この八雲中掲示板について、生徒や教員にアンケートを取ったところ、やはりどの項目も使い心地だとか便利だとか高いところで、否定的な回答は1つもなかったというところがあります。

評価の理由についても、やはり「直感的に使いやすい」だとか、「一元化されていて分かりやすい」、「1つの画面ですべて確認できる」など、やはりその辺りが使いやすさにつながっている、タブレットを使うハードルを下げるところに役立っているというところがあります。

便利だと思う機能についても、やはり「今日の予定などで一目で分かる」だとか、「完結していて速い」とか、「授業で使うURLがまとまっていて、いちいちたくさんお気に入りに入れなくて良い」とか、そういう意見がたくさん出ておりますので、これはやはり生徒たちがこちらの掲示板に行って色々な場所にというところで、すごく役立っているかなと思いました。

このように、「やくポ」の活用によって、本校では毎朝の動きについて変わったりだとか、生徒も教員も自分から情報を見る、先生が朝言うのを待つのではなく、自分から情報を見て友だちに関わって伝えたりとか、ときには自分から入力して発信したりとか、先ほど瀬崎先生からもありましたが、「離れた場所でも様子が分かるようになった」、「つながりがたくさん色々な場所でできるようになった」というのが非常に大きな進歩かなと思います。

先ほど紹介したようなポータルサイトの一部機能についてもですが、AIを直接校務に使っているというわけではないですが、業務の効率化のためにAIにアドバイスをもらいながら、エクセルマクロみたいなものをつくったりだとか、業務に役立つツールを様々つくったりしておりまして、これは今後、例えば生成AIを松江市だとか学校として本格的に使っていくことになるときにも、1つ参考になるかなと思いますので、色々お手元の資料のほうでツール例だとか紹介がありますので、もし何か気になるものがありましたらお聞きいただければと思います。

最後に、やはりICTの誕生とか存在によって、直接会ったりだとか、そこに行かなくても、しゃべらなくても情報をやり取りできるようになったというところがありますが、それでそういうコミュニケーションを省略する形になるのではなく、それによ

って生まれた時間的余裕だとか、心の余裕だとかで、これまで業務連絡をしていたしゃべりを、もうタブレットのほうで分かるので、業務に関係のない、本当に心からのコミュニケーションを生徒と、教員だとか教員同士とか生徒同士の心からのつながりというのをICTによって業務の効率化とか業務の削減でつくるべきだと思っております。

また、先ほどのお題箱や健康観察もそうですが、自分から伝えるのが苦手な生徒だとか、そういう子たちについても、ICT機器を活用することで知られていない面に気付くことができたりだとか、そういうところで気付いた魅力を直接「〇〇と書いていたけど、おもしろいね」とか言って、直接コミュニケーションに生かしたりだとか、そのようにこれからICTを活用していくべきかなと考えております。

それで、そのように活用するためにも、やはり本校もですし、玉湯学園さんの発表にもありました年齢層やICT活用能力、態度の二極化というのは、やはりどこの学校に聞いてもあるというところがありますので、その中で使用するツールやアカウントが年々増えていったり、変わっていったりするものがあって、どうしても混乱や負担が生じますので、いかにしてICTへの心理的負担や抵抗をなくして校務に取り入れていくのかというのがこれからの鍵になると思っております。

その中で、例えばICT支援員を日替わりで何校か兼務するICT支援員さんが、今までは連絡したら来てくださったりとかはありますけれども、常駐するような形になったりとか、そういう形で、簡単に困ったときは聞けるような存在を各校に1人以上は必ずいるような形にしたりだとか、あと、今後プライバシーだとか、セキュリティへの配慮や対策をしつつも、やはり業務の効率化には生成AIの活用というのもかなり鍵になってくると思っております。自分の考えていることを即生成AIに聞いたら、「こういう方法がありますよ」というように形にできる時代だと思いますので、これから学校としてだけではなく、松江市全体としてもICT活用、「こういう方法がありますよ」というツールのポータルだとか事例集だとか、そういったものがあっても面白いのかなというように思っております。

以上、本校の事例についての説明になります。ご清聴ありがとうございました。

〇川上副教育長

ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明と事例発表を踏まえ、皆様からご意見をいただきたいと思います。第2部では、市長から順にご発言いただいたあとで、フリートーク形式へと移行してまいりたいと思います。

お一人当たりの持ち時間は、目安として約3分です。事務局から提示された課題、あるいは事例発表に対するご意見・ご感想に加え、その他検討すべき教育課題のご提案などもぜひお聞かせください。

それでは早速ですが、上定市長よろしいでしょうか。

○上定市長

いつもと違って、最初に当てられなかったので、それがなくなったんだと思ったらここで復活。

ちょっと1点に絞って先生方にお聞きしたいと思うんですけれども、ICT教育についての浸透が徐々に図られつつあるというのは、当然、児童生徒側でも、そしてまた教員側、あるいは家庭でもということだと思うんですが、先ほどご説明もいただいたように二極化というか、使える人、使えない人とか使うのが苦手な、ちょっと先生のお話をまずはお聞きしたいんですが、実際、八雲の場合、年齢構成的にもあるという、本当に私はあまり年齢だと思ってはいなくて、何でもそうですけれども、やる人は何でもやるので、できる人はどこでもできるのでみたいな、そういう感じはあるんですが、ただ、これは学校によってもですし、学校の中の先生によってもだと思うんですけれども、使いこなす方、そこまでではなくて旧来型でやっていらっしゃる方と色々いらっしゃると思うんです。

それを、まず1つは学校の中の取り組みとして、平準化と言ったら変なんですけれども、上手く使っていらっしゃる方のやり方を共有するような、そういう仕組みがあるのか。

もう1つは、上手いことやっていらっしゃるのを、できればちょっと私、松江市の立場として、本当はみんな一緒にやっていかなければいけないのですが、松江市の立場として見たときに、教育委員会も含めてですけれども、こういう上手いやり方をやっているので、ほかの市立中学校でやったらどうかというようにアイデアを出していただくような仕組みができているのか。

あるいは隣の学校、あるいは学園の中で小学校に対してそういうことを下ろすなり、

共有するということができるのかというところをちょっと教えていただければと思います。

○川上副教育長

2つご質問をいただきました。まず、校内での共有の仕組みはそれぞれの学校から。それから、他校との共有については教育委員会からで良いですか。そうしたいと思います。

まずは玉湯学園さんのほうから、校内での共有の仕組みがあるかないか、どのようにしておられるかお願いします。

○玉湯学園　瀬崎教諭

玉湯学園です。本校の取り組みのパターンでいいますと、こどもたちが授業とかでもとにかく使うGoogleの基本的なものを校務の中でも取り入れて、普段から使いましょうということで、先ほどのスプレッドシートを使った日報だったり、クラスルームだったり、それを1つ活用の中心にしてきていますので、あれを大体みんなで見に行って活用して職員室の情報共有をしたり、校務を行っておりますので、そこから今度は授業のほうにも波及させていくということで、どちらかというとそういう形で基本的なものをまずは教員が校務で使って、それで活用を広げていきましょうみたいな形でやっています。

リーディングDXスクールに参加して分かったのが、やはりそういう校務DX、あるいは私たち教員の研修とか、そういったところでの学びであったりというような部分というのは授業と相似形があって、やはりすべてが全部関係している。なので、校務DXをしっかりやっていけば授業とかにも関わっていくし、研修で得られることにもみんなつながっていっているという、そのような感じがあるなと思って、校務DXというのを1つ柱にして進めてきているという、そういうところがあるかなと思います。

○川上副教育長

続いて、八雲中学校さん、お願いします。

○八雲中学校　久保田教諭

八雲中学校におきましては、本当に先ほど上定市長がおっしゃっていたように、ベテランの先生であっても、やはり積極的にICTを使っていたりとか、使っていると「何それ」と言って興味を示しておられる先生とか、やはり積極的な方と消極的な方というところは、年齢等は本当に関係のないところであると思っています。

その中で、本校でも職員会議だとか、あとは毎年松江市教育委員会さんに学校に来ていただいてICT教育研修があったりだとか、色々なタイミングで先生方に新しい何かだとかの使い方、クラスルームの使い方だとか、色々なものの使い方研修というのはあるのですが、どうしてもやはりその辺りが堂々巡りになるところはありますが、そういうものを聞いて覚えたから使っていこうというときの気持ちの余裕だとか、時間的余裕というのがなかなか持てないような現状があって、その辺りも興味を持っておられる先生や上手な先生は、「これに使えるんじゃないか」、「あれに使えるんじゃないか」とすぐにパっと動かれるんですけれども、どうしても今ちょっとそれどころではないので、結局去年までのやり方とか、去年使ったデータの数字をいじるだけとか、そういう形で終わってしまう。

だから、新しいものに触れたりとか、新しいことに変わっていかずに終わってしまうというところがありますので、やはりその辺りは、どちらも良い方向に入っていけば業務の効率化が進み、時間的とか精神的な余裕ができたら「新しいものをちょっと試してみようかな」というようにどんどんサイクルが回っていくのではないかなと考えております。

なので、学校としては職員会だとか、毎年あるICT教育研修などを使いながら、新しいことを広めていくような取り組みというのを中心に行っております。

以上です。

○川上副教育長

それでは、他校への情報提供とか共有部分について、和田教頭先生お願いします。

○玉湯学園　和田教頭

それでは、失礼します。他校との共有についてですけれども、令和5年度・6年度リーディングDXを本校が受けてやらせていただいたときに、県、そして市内外にた

くさん発信をして、随分たくさんの方に見に来ていただきました。そこでいただいたご意見としては、「大変先進的な取組で、とても良い取組だ」ということを言ってくださいました。

ただ、その一方で、松江市内の先生方からは、とても良い取組なんだけれども、やはり使っている端末に違いがあり、なかなか自分の学校で取り組んでいくということの難しさも感じておられる方が多かったです。

今年度、新しい端末が Chromebook になるという話をいただいてから、実は教頭会のほうでもそれを話題にし、校務 DX を進めていく中心といいますか、進めていく柱とならなければいけない教頭という立場で、やはり「この玉湯で取り組んでいる取組をぜひ共有したい」と、「こちらからも共有させていただきたい」というように言って、教頭会のほうで研修会を持ちました。

実際、本校での取組をみんなで共有するために、先ほど瀬崎のほうも言いましたけれども、教頭会のクラスルームを現在つくって、市内全部の学校の教頭先生とつながって、そこに本校の取組、使っているものを自由に使ってください。そして、市教委の先生からも色々な情報提供をクラスルームの中に入れていただいて、それも自由に見られるような形にさせていただいてます。

ですので、これから市内の教頭先生方とこういう色々な情報を共有するプラットホームができたので、加えると、今まで附属義務教育学校のほうとはメール等がつながっていないために、なかなか連絡がしにくい状況にありました。

しかし、この Google であればみんなつながるということで、来年度はそういう資料とかもクラスルームで発信することが可能になるだろうという、そういうメリットもあるというように今進めているという状況ですので、そこから教頭が中心となって取り組んでいるところから、少しずつ各学校での取組が広がっていくと良いなというように考えております。

以上です。

○川上副教育長

事務局から補足があればお願いします。

○石倉 ICT 教育推進係長

学校教育課です。私のほうから市教委の取組ということで、この場を借りて皆様にお知らせをしたいと思いますが、現状ですけれども、学校間のグループウェアという情報交換ができるものがありますので、そちらのほうの情報発信、市教委からの通知ですとか、そういったものは出せます。それから、データであったりの共有もしておりました。

ただ、なかなか双方向の情報共有というところに課題がありましたので、令和6年度のところで、各学校のICTの担当の先生たちでGoogleクラスルームをつくりまして、みんなで入って、その中で例えば研修の情報交換ですとか、場合によっては質問ですとかを受け付けて答えるというようなことも行っておりました。

ただ、お話にもありましたように、二極化というところで、全教員に何か情報発信するツールが必要であろうというところも課題として持っております。

そこで、まだ我々のほうで考えている段階ではありますけれども、Googleサイトというものがありますので、Googleのサービスを使ってサイトをつくって、教員の方々に見てもらえるようなことを考えたところで、八雲中学校で久保田先生がそういった取組をされているというようなお話を聞いて、私のほうも早速電話して、「ちょっと私にも見せてください」というお話をさせていただいた上で、今回こういった事例発表の場をいただきましたので、久保田先生にお声掛けをさせていただいたところですので、そういったところも我々のほうも吸収しながらやっていきたいというように思っているところでございます。

以上です。

○上定市長

大変良く分かりましたし、教頭会でクラスルームでつながっているというのを初めて聞きまして、そういう能動的なつながりを先生方で持たれているというのは素晴らしいツールになるなと思いましたので、引き続きまた、どのように使いこなすのが良いのかというご意見をいただいて、それを教育委員会、市のほうでハードを追いつかせていくというところは繰り返しやっていければなと思いました。ありがとうございます。

○川上副教育長

ありがとうございました。

続いて、塩川委員お願いいたします。

○塩川委員

2つの学校の事例発表、ありがとうございました。色々な現状を知ることができました。

私も12、3年前、学校現場を退職しましたけれども、その当時と比べて本当にICTの普及・活用、特に先ほど発表のあった校務DX、何か夢のような形で活用されているなと思いました。

恐らくその当時、私が学校に勤めていれば、間違いなく落ちこぼれになって、みなさんにご迷惑を掛けたのではないかなと、良かったなと思っています。すみません、個人的な話です。申し訳ありません。

それで、先ほどの発表の中にもありましたが、1つ気になることは、やはりICT活用、校務DXの活用・普及は色々な意味でゆとりが生まれるということで、それこそ働き方改革にもつながることではないかなと思うのですけれども、1つ懸念するのは、先ほど発表にありました教職員同士のコミュニケーション、悪い言い方をすれば、みんながパソコンをいじって触って、パソコンとにらめっこしているような状況も恐らくあるのではないかなと思うんですけども、我々はやはりface to faceといいますか、色々な意味で直接対話をしながら色々なことを同僚・先輩から学んだという経験がありますけれども、そういう意味で活用を図るとともに大事な、特に生徒とのコミュニケーションももちろん大事なんですけれども、教員同士のつながりという面で、その辺りを少し懸念していますので、実態をまた教えていただければと思いますけれども、そういうこと1つ老婆心ながら、そういう思いをしました。

それから、2つの発表の市教委への要望として、いずれも市教委から色々情報がいただけるということですけれども、やはりある程度定着するまでは常駐とは言いませんけれども、それに近い形で、いつでもどこでも相談できる支援員の方の配置があれば良いなと強く感じたところです。

最後に、やはり今、各学校で今日発表された担当の先生、それから総括しておられる教頭先生の働き方改革は大丈夫なのではないかと。業務負担の面でかなり、それこそ定着するまで大変ではなかったかなと思っているところです。

すみません。感想です。

○川上副教育長

ありがとうございました。

3つ質問があったかと思います。1つは、教職員同士のコミュニケーションの実態はどうなのかということと、3つ目にあった、実際こういうものを立ち上げ構築されている担当者の働き方はどうなっているのかということについて、それぞれでお話を伺おうと思います。

まず、玉湯学園さん、いかがでしょうか。

○玉湯学園　瀬崎教諭

玉湯学園です。塩川委員に言われることはとてももっともなお話だなと思って聞いておりました。

コミュニケーションのことなんですけれども、従来であれば朝10分程度、みんなが顔を合わせて朝礼を行ったりして情報交換を行って、それこそ目線合わせをやってというような形だったと思いますけれども、今、本校はそういう時間がどんどん減っていって、今、週に1回、連絡程度のものを水曜日にやっております。

中には、「もう全部大体連絡できるから、そういう日報みたいなツールを使ったら良いのではないか」という意見もあるんですけれども、でも、やはり対面で顔を合わせる、声を掛け合うというのは、やはりとても大事なことだなと。「週に1回はこれをやろうよ」ということで、週に1回はそういう場を残しています。

あと、職員会でとりあえずみんな集まる機会もありますので、そういったものを大事にしているということが1つ。

それから、学校の中に、今、法令のほうで定められていると思いますけれども、衛生委員会というのがあります。教職員が教育活動に専念できる環境づくりというところの部分だと思いますけれども、私たちが進める校務DX、一番関心を寄せて「色々一緒にやろうよ」と言ってくださったのが、そういう衛生委員会のスタッフの先生で、そこで、「生まれた時間を使って、教員同士楽しい時間をつくろうよ」、「お茶会をしようよ」とか、そのようなことで衛生委員会が今度は逆に「時間があるなら使わせて」、「一緒にやろうよ」と言ってくださって、そのようなところで、ちょうど生まれた時

間をこどもたちのためにも返すし、私たちの労働環境の改善みたいなところにも使える部分はあるなというところを感じております。

あと、先ほどの私たちですけども、学校に行って全部やるというのはなかなか苦しい部分もありまして、それこそ Google のこういうクラウド環境が使えますので、ネットにつながるという環境があれば、どこからでもそこにつながることも可能になっていますので、私は割と柔軟に仕事のほうを進めさせていただいたりしていて。

これから多分入ってくるであろう生成 AI とか、そういったところを個人的に試すというようなところでやらせてもらったりして、テストの作成とかテストのチェックとか、結構使える場面がありまして、時短にはこういう Google とかがサービスとして提供していただいたようなものでもかなり使えるなと思って使わせてもらっております。

以上です。

○川上副教育長

続いて、八雲中学校はいかがでしょうか。

○八雲中学校　久保田教諭

ご意見とかご感想をありがとうございました。本当に塩川先生のおっしゃるとおりで、コミュニケーションの希薄化というところは、本校でもすごく懸念をしているところであって、そのために、例えば本校も日報だとかがそういう形で情報共有できるようになったことで、全体の職員朝礼のほうを少しずつカットしていこうというところで、今年度のところで取組を進めておりますが、その中で、全体の職員朝礼で、書いてあることを共有することがカットされた分、学年朝礼は必ず学年の職員同士で膝を合わせて会話をするという時間は必ず取るようにしていて、その時間が長くなったような感じになっています。

それによって何が起こっているかというと、これまでは業務についての「何時に○○さんが来られます」みたいな話だけだったのが、学年だけで基本的な情報は先ほどのサイトなどを見て頭に入っているので、「そういえば昨日、朝礼に上がったらさ」とかそういう感じで、それぞれが朝終礼やクラスで上がったりだとか、生徒との雑談のような会話の中で得た情報などを、どちらかというとざっくばらんな雑談形式で共有

し合ったりだとか、より深いところまで会話ができるようになったかなというところがありますので、やはり今後 ICT だとか、業務の効率化が進む中で、何とかそうやって人間同士のつながりや顔を合わせた会話というのを続けていくための手立てというのは、どの学校でも省略をして終わりというだけではなく、生まれた時間を何に使うかとか、逆にどういうところでコミュニケーションを補っていくかというのは、どの学校も管理職等が中心になって示していくべきかなと思っております。

また、我々の業務負担のことにもすごく気を配っていただいて、これは私自身、八雲中でいうと、すごく今、僕に負担が集まってきているようなところが実際ありまして、どうしてもこういう ICT だけというか、ICT に長けているとなると、例えばプリンターの調子が悪いだとか、今回の Google とかと関係のないところのシステムのことについても、とりあえず僕に聞いておけば何とかなるみたいな、そういうところもありまして、その辺りについても、先ほど発表のほうでもお伝えした支援員の配置というところ、やはりどうしても連絡をして、それで来てくれるというのだと、どうしてもハードルが高いところがありますので、日替わりで今、例えばスクールカウンセラーさんだとか、日替わりで何曜日はうちの学校に来るというスタッフがおられると、例えば「その先生が来たときに聞けば良いや」というようになったりだとか、その先生がいるときに、例えば ICT を使った授業の第 1 回目をその先生が来るタイミングで設定をして、「ちょっと手伝ってよ」という形にしたりだとか、そういう形で負担を分散させる上でも、そういう支援員が必ず来るという環境をつくると、負担がある程度分散するのかなと思っております。

併せて、僕自身の課題にもなりますが、属人化しないようにするための設計、ほかの人でも同じシステムを使ったりとか、同じことができるようにするための設計というのは、それは当然 ICT 環境を構築する上で、つくる者自身も考えていかなければならない今後の課題だと思いますので、来年度以降もそれを意識して、僕自身は業務をしていかなければいけないかなと思っております。

すみません、回答になっているか分かりませんが、以上です。

○塩川委員

ありがとうございました。安心しました。

○川上副教育長

ありがとうございました。

それでは、続いて金津委員お願いいたします。

○金津委員

まず、私、この働き方改革プランについてなんですけれども、企業を経営している者からすると、先生の世界とのはかなり特殊で、この給特法1つとっても普通企業ならば残業時間を厳しく見て、それで残業代をしっかり払っていかないとダメという、企業は非常に大変厳しいわけですけれども、それはもうそれでしょうがないというか、今後は1%ずつ上がって10%までいくとか、そのようになってくるとは思うんですけれども、企業では、今年、労働基準法の40年ぶりの大改正を控えていると言われているんですよ。勤務時間のインターバルとかカスハラ対策をしなさいとか、つながらない権利、ガイドラインはまだ出ていないのですけれども、そういったところを今後、教員の働き方というものの中でどのように今後捉えていかれるのかなという部分と、あと、この改革プランでは、指標について、時間外労働の時間の指標だとか、ストレスチェックの受検率だとか、そういう目標設定があるんですけれども、もう少し労働について広がりを持って、様々な視点で考えていったほうが良いのではないかなという部分があって、それは例えば企業とかでは3年以内の離職とかというのを採用サイトとかでも表示しないとダメなぐらい重要な項目になっていたりして、先生は3年以内の離職率はどうなのかとか、あるいはメンタルヘルスの休職状況とかはどうなのかとか、あと、男性の育休状況・取得状況がどうなのかとか、広い意味での労働の何というか、今後先生たちはどうしていくかみたいな部分とかも何か今後考えていったほうが良いのではないかなというようなことをちょっと感じております。

あと、現状、玉湯学園さんと八雲中学さんの色々な取組を聞かせていただいて、本当に素晴らしいなと思って、色々な校務DXが非常に進んでいるんだなということを感じましたけれども、弊社でもGoogleワークスペースを入れて、色々なものが統合できても、Geminiとかも使い始めるともう手放せなくなるぐらい、本当にすごいのですけれども、ちょっと気になったのが、玉湯学園さんが「よく使っていますよ」と、赤い四角で囲っていたものにGeminiが入っていなかったのですけれども、その辺りはどうなのかなというのと、あと、八雲中学校さんは、ちょっと気になる部分が色々

あって、採点の電子化というのはどのようにやっているのかなと。何か画像読み取りみたいな、ちょっとよく想像ができていなくて、もしそうだったら、字が汚い子とかはどうしているのかなとか思ったりとか、あと、ノートブック lm も、うちの社員とか本当に活用していて「素晴らしい」と言っているんですけれども、どのように使っているのかが記載されていなかったので教えていただきたいなと思うんですけれども。

このAIとかICTの活用についての二極化という話があったんですけれども、弊社でも同じで、「若い者がやれば良いわ」みたいな感じで、ずっと平行線になって属人化していて、これがなかなか解消できなくて、今後解消できるのかなというのをちょっと思っているんですけれども、すいません、最後のはぼやきです。

以上です。

○川上副教育長

ありがとうございました。

まず、最初に事務局から何かコメントがあればお願いします。

○三島教育指導官

教育総務課の三島です。ご質問等ありがとうございました。

勤務時間のインターバルですとか、カスハラ対策というものにつきましては、文科省のほうも「それぞれの教育委員会で対策を練るように」というように言われているところでございます。

ただ、勤務時間の件につきましては、今、皆美が丘女子高さんのほうで、勤務時間、インターバルではないですけれども、時差出勤のこと、そういったものもちょっと取り組んでおります。そういったものを今度は検証して、小中学校でもできるのかということを今考えているところでございます。

そういったことで、一遍にすべてのことをするのは難しい面はありますけれども、一つひとつできることからやっていこうというように考えているところでございます。

あと、目標設定につきましては、いただいたご意見を参考にして、また検討させていただきたいと思います。ありがとうございました。

○石倉ICT教育推進係長

失礼します。学校教育課の石倉です。生成 AI の件に関しては、私のほうから回答させていただきます。

先生が Gemini を使っていないのではないかというのは、すみません、私のルールづくりというところがまだなので、先生方に使っていただけていないというような状況になります。現状は特に瀬崎先生、久保田先生などには、我々がルールづくりをしていますと伝えておりますので、それに向けて今、準備ですとか研究を個人的にしていただいているという段階になります。我々のほうでもちょっと急ぎルールづくりのほうを早くしたいなと思っております。

以上でございます。

○川上副教育長

それでは、採点のシステム等について、八雲中学校さんお願いします。

○八雲中学校　久保田教諭

採点の電子化についてですが、金津様のおっしゃるように画像の読み取り、画像としてスキャンをして、解答用紙はこれまで学校で使っている解答用紙と全く同じなんですが、解答枠を設定することで、そのスキャンした画像の同じ解答枠の解答をズラッと見られる。要するに、第 1 問題の問 1 のアの答えをズラッと模範解答と生徒たち一人ひとりの解答をバンと見られる。それは画像で見えるので、生徒が書いている文字を見るのと同じなので、先生が読み取れればそれは読み取れるというところで、その機能の中で AI 認識という機能があったりもするんですけれども、これは機能の中で僕も試しで使ってみたことはあるんですが、すごく精度が低くて、ただのア・イ・ウ・エ・オとかのカタカナ 1 つだけ、アとかですら AI が出してきた正答・誤答と、実際にこちらで見た正答・誤答が違うみたいなことがあって、まだまだどうしてもその辺りまで含めた完全な電子化というのはできていないような現状ですので、採点ナビを使った採点の電子化は、生徒の解答を一気に見て、一気に全員丸だったら「全員丸」というボタンを押せば全員バンと丸になったりするので、そういうことを使ったりして、一つひとつに丸付けをしたりとか、一人ひとりの最後の問題までを見て、次の人のをまた上から見てという、その辺りの気持ちの切り替えなどのコストを減らせるという面だとか、あとは計算のところ、様々な知識・技能とか思考力・判断力とか

観点別の問題があるんですけれども、それぞれの知識・技能は何点、思考力・判断力は合計何点で、最終的な合計点は何点の計算とかを自動でやってくれたりだとか、そういうところ、かなり計算ミスがあったりとか、負担があったりするような業務なので、そういうところだけでもオートになったというところは、すごくこちらの業務改善につながっていると感じております。

以上です。

○川上副教育長

よろしいでしょうか。

続いて、大谷委員お願いします。

○大谷委員

ご説明ありがとうございました。

みなさんが色々お話をされたので、まず、DX のお話、生成 AI とか ICT のところについては、私もほかの市町で関わったりするときに、やはり先進校を見ていると、先進校からお二人言っておられたように、伴走型支援員がやはりいると非常に力強い、やっていけると。

先ほど先生がおっしゃっていたように、ALT さんが回るような感じで、月・火・水は支援員さんが来てくれます。週に 1 回でも来てくださるのであったら、そのときに難しいことを溜めておいて、そのときにまとめて聞こうというようなことが機能している市町があります。

私自身もそうですけれども、やはり聞ける人がいるというのは非常に力強いので、そのようなことが取り入れられると良いのかなというように思いました。

前半の働き方改革と関連して、生成 AI を上手に使うというのはこれから大きいだろうなというように思っています。私は教科としては英語なんですけれども、先ほどお話ししておられたように、情報の入れ方に気を付けないといけないんですけれども、例えばこの単元の文章を入れて、「これを基に、こういうテストをつくってください」と。私にはできないんですけれども、専門家がやっておられるのを見ると、1 つの読みものを基に「リーディングとリスニングとスピーキングとライティングのこんな問題をつくってください」と言ったらすぐにできてくるという、人間がつくっていたら

本当にどのくらい時間かかるかと思うんですけれども、例えば「こういう女の人の声で、このぐらいのやさしい英語でスピーキング問題をつくってください」とか、「リスニング問題をつくってください」とか、スピーキングで言ったものを判定してくれるとか、そこだけでも先生方の負担も大分減るだろうなというように思っています。

また、客観的に見る、先ほどお話しされた採点のところも、文字認識はまだまだなんですけれども、客観的に色々見れるとか、この問題については全体でどうだったのかとか、そのような分析ができるというのはまた新しい視点かなというように思っているので、その辺りが上手に活用できると良いのかなというように思っています。

私、海外の方とのやり取りが多いんですけれども、もう 10 年以上前になると思うんですけれども、フィンランドの先生が来られたときに、こどもの連絡帳がもうデジタル化されていて、なので、地球の裏側なんですけれども、「うちの子は昨日、算数の教科書を忘れたらしい」と言うから、「どうしてそんなことが分かるんですか」と言ったら、「連絡帳がデジタルに出るから全部分かるんだ」と。評価も実は全部そこに入っているらしくて、もちろんパスワードもセキュリティも非常にしっかりしていて、もちろん連絡帳とは別物なんですけれども、評価が入っていて、ですから、昔の評価を教員も見れるし、保護者も見れるし、本人も見れるしというように、そこのセキュリティはすごく大変だとは言っておられたんですけれども、ゆくゆくそんなこともできるようになると便利になるのかなというようには思っています。

なので、例えば評価のデジタルポートフォリオ化をしている学校が増えてきているんですけれども、そうするとこどもが昔のものを自分で見たりだとか、今まで文字だったものがデジタルになることによって分かりやすくなったりだとかということがあるのかなというようには思うところです。

最後に、前もちょっとお話ししたかと思うんですけれども、働き方改革について、私は ALT さんに研修することが時々あるんですけれども、ALT さんからの一番多い質問の 1 つが、「日本の先生は、何であんなに忙しいんだ」ということが必ず出てきます。

そのときの説明の仕方として、英語で言うと「We have eight 」、つまり「8 つ以上の職業を日本人の先生は 1 人で抱えているんだ」という話をするんですけれども、どういう役割分担かというと、担任、教科専門家、スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー、事務の係、中学校だとアカデミックアドバイザーと言うんですけれども、

これからどんな勉強したら良いかというのと、キャリアカウンセラーと、掃除をする人と、クラブの監督と言うだけで８つ以上になるんですけれども、そのぐらいほかの国だったらプロがやっていることを日本の先生は１人でやっている。だから忙しいんだという説明をするんですけれども、それが今、だんだんほかにできる方に分担されているというのはすごく良いことだなと思いつつ、まだまだ何かできるようなことがあると思いますし、でも、やはり先生でないとできないことがあるので、その辺りのバランスを見極めながら、上手く先生方のご負担が減っていくと良いなと思っているところです。コメントです。

○川上副教育長

ありがとうございました。

それでは、教育長お願いします。

○青木教育長

校務 DX についてご説明ありがとうございました。私たちがこうやって話を聞くのは、やはり先進的に取り組んでいる学校。私も訪問して、いくつかの学校を見ますけれども、やはりそれも積極的にやっている学校になってくるので、担当の先生に聞くと、「学校の中に、そうやって引っ張ってくれるリーダー的な人がいると、校内で校務 DX も進むけれども、そうではない学校、意識の低い学校は、なかなか進まないんです」という話をよく聞きます。悩ましいところだなと思っていたんですけれども、今日、教頭会さんがクラスルームをつくったということで、今後それに期待をしたいと思っております。

それから、働き方改革の件ですけれども、実は先月、全部の校長先生と面談をした中で、「それぞれの学校で働き方改革、どんなことをしておられますか」というのを聞いてみました。一番多かったのが生活時程の変更ということで、1 時間目の始まりを早くしたり、6 時間目の終わりを早くする。終礼の時間を短くするというようなこと。それから、週の中で曜日を決めて、例えば月曜日だったら、月曜日 6 時間目授業から 5 時間目に変更して、空いた時間を校内研修とか教材の研究時間に充てる。それから、1 コマの授業時間を 45 分から 40 分に変更して、短縮した時間を生徒たちの自己選択学習、自分がやりたい学習、苦手なところを自分で学習する時間に充てるという意見

が多かったです。

そのほかにも結構多かったのが、通知表を2期制に変更。1学期末、2学期末、3学期末ではなくて、秋と年度末というようにすると、1学期の終わりに向けて、慌てて色々作業する必要がなくて、夏休みとか冬休みに評価をするようなことができたとか、通知表に家庭に向けて書く所見がありますね。あれを面談に代えるということでやめた学校もありました。

あと、主に夏休みですけれども、教職員もフレックスタイムを導入しているとか、掃除の回数、毎日やっていたのを2日に1回とか、そのように減らしたところ。それから、年間行事の見直しをして、土日の行事は平日、夜の会議もなくしたり、PTA活動も減らしたというような意見がありました。

それから、ちょっと試みで小学校、中学校の校長先生を数名ずつ呼んで、自由にざっくばらんにこの働き方改革について意見交換を始めています。ちょっと私が色々な他市とか他県の取組を、好事例というか、聞いたものをちょっと情報提供したりして、「こんなことはできそうにないですか」とか、そんなこともしたりしています。

学校の先生たちも、ほかの学校がDX以外のところでどんなことをしておられるのかというのを把握していない先生もいたので、それは多分、小学校・中学校ごとにアンケートを取って、みなさんで共有されるということだったので、そんなことも今後継続してやっていきたいなと思っています。

ただ、どこの校長先生も言われるのが、「働き方改革を進めたいけれども、とにかく先生がいない。不足している」ということを言われるので、継続して県の教育委員会には強く要望していきたいというように思っております。

あと、最後に、文科省が示している3つの分野別の働き方改革を進めていく上で取り組んでほしいことが載っていますけれども、それも恐らく予算だったり、人だったりが必要になってくることがあろうかと思いますので、そこの辺りは市全体で考えていかないといけないかなと思っています。

以上です。

○川上副教育長

ありがとうございました。

すみません、フリートークの時間を考えていたのですが、これまでのやり取りで時

間を使ってしまいました。

最後にどうしてもこれは言っておきたいということがもしあれば、いかがでしょうか。

……質問・意見なし……

よろしいでしょうか。もしまた何かありましたら、事務局のほうにお伝えいただけたらと思います。

それでは、以上で第2部を終わります。

予定しておりましたすべての議事が終了いたしました。本日はご多用の中、長時間にわたり建設的かつ貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。

最後に、貴重な提案・事例発表をしていただきました両校の先生方、お立ちいただいてよろしいですか。お礼の気持ちを込めて拍手を送りたいと思います。ありがとうございました。

それでは、これをもちまして令和7年度第2回松江市総合教育会議を閉会いたします。今後とも松江市の教育行政の推進にご理解とご協力を賜りますよう、お願いを申し上げます。

なお、2月2日から駐車場の有料化を開始しております。お車でお越しの方は、1階中央の階段前、あるいは総合受付に配置しております認証機を通していただきますようにお願いいたします。

それでは、以上で終わります。本日は誠にありがとうございました。お気を付けてお帰りください。